補　　足

第1章

1, Gerhard Uhlhorn,「キリスト教慈善事業」, Neukirchen 1959, 7頁以下. (Uhlhornの要約) - W. Schneemelcher,「古代教会におけるディアコニーの奉仕 -Herbert Krimm, の「教会のディアコニーの職務」論文集, Stuttgart 1953, 64 頁以下」

2, Hendrik Bolkestein, 「紀元前の古代における福祉事業と貧民救済」, Utrecht 1939- Wilhelm Liese,「カリタスの歴史」, 2巻, Freiburg 1922 -Franz Meffert, 「中世の初期にいたるまで、カリタスと病む人」, Freiburg 1927. Adolf von Harnack, 「キリスト教の宣教と伝播」2巻, 4版, Leipzig 1924.

3.「クムラン・テキスト」は M. Burrow 「死海文書」, (1957) 1958- H.Kosmola, 「ヘブライ・エッセネ・キリスト教徒」, Leiden 1959- RGG³, 5巻, Spalte 740頁以下参照 - Otto Betz, 「クムラン集団における啓示と文献研究」, T ingen 1960.

4, W. Brandt, Bethel,「仕える人イエス」はKrimm,「教会のディアコニー職」, 16頁以下

5, 新約聖書神学事典, 2巻, Stuttgart 1935, 81頁以下.

6, Adolf Kalsbach, 「古代教会のディアコニー制度、彼らの救いにいたるまで」, Freiburg 1926 - Leopold Zscharnack, 「キリスト教会の最初の100年における女性の奉仕」, G tingen 1902.

7, Schneemelcher 73頁.

8, Michael Rostovtzeff, 「ローマ帝国の中での社会と経済」, L. Wickertの翻訳, 2巻, Leipzig o. J. (1930).

9, Herbert Krimm, 「初期カトリック教会のディアコニー」, Herbert Krimm, 「教会のディアコニー職」, 102頁以下 - Herbert Krimm (編集者), 「ディアコニーの歴史に関する資料」1. 古代と中世, Stuttgart o. J. (1960) .Krimm,「資料」要約).

10, Paul August Leder, 「監督と長老とその原始キリスト教の先駆者のディアコニー」, Stuttgart 1905 - Joh. Nep. Seidl, 「カトリック教会におけるディアコニー」, Regensburg 1884.

11, ギリシアーオーソドックス教会は12世紀の半ばまで老人と病人

に対する施設の指導者としてディアコニッセを知っていた．その修道院の中にあって、今日まで「ディアコニッセたち」は、 それは特別な例えば「叙任」を与えるもので、叙階された．彼女たちは一つの「特別な階級として聖職に属した」.Evangelos Theodorou, 「ギリシャ - オーソドクス教会におけるディアコニー職」「内国伝道」1960,372 頁以下を参照．

12, Krimm,「資料」, 50 頁

13, 上記 61 参照

13* , 上記 55 頁参照

13**, 上記 67 頁以下参照

14, Franz Overbeck,「ローマ帝国における古代教会の奴隷制度との関係について」 I, 1875 , W. L. Westermann,「ギリシアと古代ローマの奴隷制度」, Philadelphia 1955. 古代教会は、実際に行動してキリスト者奴隷の解放を迫った、だが奴隷制度には理論的に論駁はしなかった．解放という基本原則について、教会はコンスタンチヌスのもとでも成功していない．

15, Fr. Woess,「プトレマイオス時代と後期の発展におけるエジプトの救護所」, M chen 1923.

15*, Uhlhorn, 193 頁以下．

16, Schneemelcher 86 頁以下 -A. V bus, 「シリアの修道院の慈善活動 - 論文オリエントにおける隣人愛の歴史について, Pinneberg 1947- Krimm, 「資料」80 頁以下．

17, G. Ostrogorsky, 「ビザンチンの国の歴史」, (1940) 1952.

18, Krimm, 「資料」67, 75 頁以下, 78 頁以下．

19, Joh. Leipoldt, 「アトリペのシェヌートと民族的エジプトキリスト教会の成立」, Leipzig 1903 - Hans Lietzmann, 「古代教会の歴史」4 巻, Berlin 1944,116 頁以下．

20, Schneemelcher,89 頁以下．

21, Gregorovius,「中世ローマの歴史」, 5 版, 1903, II,55 頁以下 - Santo Mazzarino, 「古代世界の終焉」, M chen 1860.

22, Albert Hauck,「ドイツ教会史 I 」Berlin 1952, 337 頁以下 -F.

Kaphahn,「古代と中世のあいだ」1947- K. Kramezt -E. K. Winter,「聖セヴェリン、東と西の聖なるもの」, I, II, 1958/59.

23, C. Fr. Arnold,「アルルのカエサリウスとその時代のガリア教会」 1894.H. von Schubert,「中世初期におけるキリスト教会の歴史」1921.

24, W. Stuhlfath,「大グレゴリウス」, 1913 - E. Caspar,「政治の達人」1923, 325 頁以下 - 注 21, Gregororius 参照 .

25, Schneemelcher 95 頁 .

26, Fritz Curschmann,「中世における飢餓」 1900- Wilhelm Maurer,「中世におけるキリスト教ディアコニー」, Krimm, 「教会のディアコニー職」125 頁以下 Maurer の要約 .

27, Krimm,「資料」111 頁

28, 上記 110 頁参照

29, Maurer 129 頁

30, どんな時代にもベネディクト会の規則によって模範的にあらわされた - その中でディアコニーの義務を繰り返し、ある種の影響を彼らに与えてきた - 服従の問題だけを取り扱ってきたのではない . すべてのレーグラ(女の名前）の規則の中で信条をほどほどに耐え抜くことがもっと重要であると思われる . ベネディクトはほどほどにできた . この中に彼の秘密がある .「人はすべてほどほどに」「彼の基本方針は難しいことを称賛しない . ベネディクトは最高の成績に近い記録をゆったりしたくつろぎやすさと評価する . すべて限度をこえたものは、弛緩したものと同じように , その壁から追放される .」「活動に夢中になって働くほどの兄弟はいなかった」. 語られてきたレーグラの人間的性格は ,,ora et labora 狽ｱ平静に書かれている .Walter Nigg,「修道士の秘密」 1953, 173 頁以下参照

31, Carl B her,「中世における婦人問題」, 1910 - H. Grundmann,「中世における宗教運動」, 1935.

32, Th. Steinb hel,「ドイツ神秘主義の信仰とエトスにおける人間と神」1952 -O. Englebert,「アシージのフランツィスクス」Paris 1947 (deutsch 1952-Hanns Lilje,「現代世界における慈善

の使命」，Hamburg 1939，15頁:フランツィスクスは - 行動的愛の輝く模範として計画的に貧民を選び、それによって100年にわたって良心に訴えた．彼がはじめた施す喜びは、テュリンゲンの聖エリーザベトにおいて再び光り輝き、同時代の人たちに深い感動を与えてきた．

33， Maurer 142 頁以下

34， Krimm，「資料」133，146頁

34*， 上記135頁参照．

35， 上記149頁参照 - Maurer 149頁

36， Maurer 148頁

37，Robert Stupperich,「ドイツ宗教改革における同胞奉仕と隣人救助」Herbert Krimm,「教会のディアコニー職」 56頁以下(Stupperichの要約)

38， Martin Luther，「キリスト者の自由について」，1520，W. A. 7,20-38.

39. W. A. 17，2，46

40， 上記12，694頁以下を参照

41， Stupperich 168頁．

42， Stupperich 178頁(文献表付).

43， E. Beyreuther，「19世紀のはじめまでのドイツ・プロテスタントにおけるエキュメニカルなディアコニー」31頁，Christian Berg,「エキュメニカルディアコニー」1959の中にある．

44， 上記 40頁参照．

45， H. Erbe，「ドイツにおける飢餓」，1937 (文献表付).

46， Franz Lau，「バルド派の歴史 - 初めから現代にいたるまで 」，「伝道する寄留の民」，26. Jg.，H. 4，232頁以下．

47， W. Bernoulli，「宗教改革時代の改革者のディアコニー」，Herbert Krimm，「教会のディアコニー職」，193頁以下．

48， 上記225頁参照．

48*， メノー派による名誉ある患者救済のディアコニーについて，H. Penner，「世界にひろがる兄弟団」，1955 - Herbert Krimm,「エ

キュメニカルな領域における教会のディアコニー職」, Stuttgart 1960, 100頁以下.J.C. van Dongen,「ネーデルランド改革教会におけるディアコニー」 (Dongenの要約).

49, Dongen 100頁以下

50, 上記 106頁参照.

51, Theodor Schober,「教会の金庫」, 1961, 100頁

第2章

1, Klaus Deppermann,「ハレの敬虔主義とフリードリヒIII世下のプロイセン国」 I. G tingen 1961, 6 頁以下を参照

1*, 中世は,すでに,神の国に一定の席順があり,高い位の聖職者に特別な座が認められていることを知っていた.市の参事会と貴族のための上席はいつも用意されていることを知っていた.貴族がその中で快適に過ごし,「まどろむ」こともできるベットの小部屋を備えているという事を,宗教改革が終わったあとの100年のあいだで知った.しかし,病気で気の毒な性格の人はこの「ベットの小部屋」を30年戦争の後初めてもらった.また,教会が金持ちの埋葬場所になったが,教会の中に,「貧しい」人々のための場所を設置をすることは、しばしば制限された.

1, **,教会批判と社会風潮に関する批判と,無神論に関する批判とは別の根源があるのではない.事実だけが示されているのである.即ち宗教戦争によって「キリスト教」への失望が生じ,別の面から意見を述べている.中世後期の教会批判と社会批判は,隠れていて,後々まで影響を及ぼしている.

2,Emanuel Hirsch, 「新福音主義神学の歴史」, G ersloh 1951, 91頁以下- E. Beyreuther, 「敬虔主義の歴史」, Stuttgart 1978,61-122頁

3, 上記152頁以下参照

4, E. Beyreuther, 「アウグスト・ヘルマン・フランケと世界教会運動の開始」Hamburg 1957, 35頁

5,上記38頁参照- Heinz Renkewitz, 「敬虔主義の時代のディアコ

ニー思想」, Krimmの「教会のディアコニー職」の 258頁以下. (Renkewitzkfの要約)

6, 注1, 58頁以下参照

7, W. Gr , 「シュペーナーの社会活動と思想」, 1935 (Diss. Frankfurt).

8, Uhlhorn 653 頁以下 - Renkewitz 258頁以下

9, 注1, 599頁以下参照(文献資料一覧付).

10, August Hermann Francke, 「不信仰の恥と信仰の強さに対して, なお生き, 治められている, 愛のこもった, そして忠実なる神の祝福に満ちた足跡」1709,1章7頁

11, C. Hinrichs,「フリードリヒ・ヴィヘルムI」1941, 559頁以下

12, 注10, 81頁以下参照

13, E. Beyreuther,「アウグスト・ヘルマン・フランケ」, 1956, 5頁以下. 注1, 91頁以下参照

14, Beyreuther, 「フランケ」174頁以下参照

15 , 注4参照.

16, 注1と注11参照

17, 前記詳述参照. E. Beyreuther, 「アウグスト・ヘルマン・フランケ 」「新ドイツ伝記 M chen 1962. の中.

18 , Uhlhorn 701頁以下

19, 上記 668頁以下

20, 注13, 238頁以下参照.

21, E. Beyreuther,「若きツィンツェンドルフ」, 1957 同じく, ツィンツェンドルフと一緒に見られる「ツィンツェンドルフ伝」II巻, 1959 - 同じく「ツィンツェンドルフとキリスト教ツィンツェンドルフ伝」III巻1961:3巻にある索引 -Renkewitz 282頁以下参照.

22, E. Beyreuther, 「ツィンツェンドルフの神学研究」, Neukirchen 1962 (ブルーダーシャフトと共同体のよさ)

23, Heilmuth Erbe, 「ベツレヘム, ペンシルバニア」,「18世紀の共産的ヘルンフート・コロニー」1929, 39頁以下, 注 173頁以下

24 上記95頁

25 ,注21 - 索引参照

25* ツィンツェンドルフは女性と娘たちに，ある活動領域で，女性グループの牧会を委託し，彼女たちの健康と病気の世話をした．教会の活動分野の中で女性の地位を認めようという要請はまだ教会にはなかった．だが彼の手本は深く作用していた．会[Ch en]の中で一つになったシュヴェスター制の手本は後にディアコニーの家、社会施設が生まれてきたことを思わせる．ツィンツェンドルフの同胞共同体はその共同生活という形態をもって、ディアコニッセの父・フリードナーとレーエに大きな影響を与えた．

25** ,ヨハン・ハインリッヒ・ペスタロッツィ(1746-1827) は最初1780年の彼の生活プログラム「隠者の夕暮」についての文学的叙述,また、彼の村での生活「ラインハルトとゲルトルート」(4部,1781-87)はスイスじゅうで広く注目された．だが、1798年にいたるまでの期間のあと，助けのない孤児への献身の思いが燃え上がった.Yverdonにいる彼のところには，学校，ペンション施設，養成所，現存する教育機関救貧院(Clindy)からも多くの教育関係者がヨーロッパじゅうから巡礼にきた．啓蒙主義の仲間として人道上の目標を目指し、そのことに強い影響を与え始めたペスタロッツィの任務は1780年から始まっている。それに関するペスタロッツィの人道的活動が他の根から出ている啓蒙主義の仲間たちの人道的活動についての叙述によって、ペスタロッツィを知る。ペスタロッツィに関する資料は、RGG³, V, Sp. 241参照

26,Uhlhorn 678頁

27,上記681頁以下

28,上記698頁

第３章

1,E.Beyreuther, 「信仰覚醒運動」,「歴史の中の教会」. Kurt Dietrich Schmidt und Ernst Wolf 編集によるハンドブック，G tingen, (1963), 1977. 2

2,Erich Schick, 「前兆と先駆者」ラスラーミッションが始まるまでの福音主義教会の宣教史の基礎, Basel 1943, 83頁以下

3,Franz Schnabel, 「19世紀のドイツの歴史」IV巻「宗教の力」Freiburg 1955 (縮小版 Schnabel), 400頁以下

3*,M. Simon,「バイエルンの福音主義教会史」参照,1952.11,536頁以下 - E. Schick, 「前兆と先駆者」,1943- 聖書協会の歴史文献. RGG³ III参照,1Rd,1157頁以下.

4,Alfons Rosenberg, 「キリストと地上」,Olten 1953,100頁以下他

5,Wilhelm Heinsius,「J.F.オベリンとシュタインタール」, 1955-P. Krauli, 「グスタフ・ベルナー,業績と人」, Stuttgart 1959.6

6,「J.F.オーベリンの生涯とDr.ヒルペルト,E.シュトューバーたちが編纂した手紙の全集」J.F.オベリンの完全な生涯の物語とDr. Hilpert, B. St erによる書簡全集の出版とW. Burckhardtによる編集翻訳, 4 Teile, 1843-E. Beyreuther,「現実主義と信仰の経験」-1976年1月1日、ヨハン・フリードリヒ・オベリンの没後150年記念に.同書に 「信仰と神学」, Hildesheim 1980, 265-280頁

7,Martin Gerhardt,「ヨハン・ヒンリッヒ・ヴィヘルン,生活像」3巻, Hamburg 1928, 245頁

8,Friedrich Hau°に引用された「キリスト教徒の父」,2巻 1957,130頁

9,103頁以下注4,5参照

10,同上

11,113頁注8参照

12,Schnabel 404頁以下,バロン・フォン・コトヴィツ,ヨハン・エバンゲリスタ・ゴスナー等々も明らかに同じものに属している. このことについてはHs.Brandenburg,「大都市の中で神の呼ばわる人」.1951-「概論として Gro°nerについては ,Martin Gerhardt,「内国伝道の1世紀」I, II,1948, I巻,120頁以下参照-Hermann Schauer,「1世紀の変遷の中での女性ディアコニー」, G tingen 1960, 107頁以下-H.Dalton, J. Ev.Go°ner(1873) 898-2 - H. Lokies, J. Ev.Go°ner(1936) ,1956.2-W.Hoisten,「J. Ev.Go°ner」,1949(文

献表付)

13, Johannes Kober,「Chr.フリードリヒ・シュピットラーの生涯」Basel,1887-Karl Ruth,「南ドイツの救護施設運動,Chr. H. ツェラーとシュヴァーベンの敬虔主義」927-H. Erbacher: 「バーデンにおける内国伝道」,1960

14,Schnabel, 410頁と上記註13

15,Schnabel,407頁以下-Chr. H. Zeller,「キリスト教貧民学校教師のための経験の教え」827-H. Thiersch,「Chr. H. ツェラーの生涯」2巻
1876以下

16,Martin Hennig,「内国伝道の歴史に関する資料」,Hamburg 1912,38頁以下

17,Schnabel . 404頁以下-Martin Gerhardt, Wichern, I巻,255頁-J. H. Wichern,「J.ファルクとヴァイマールの彼の研究所」(Ges.SchriftrnVI, 1908,1-59)-T.Reis, J. Falkの「非行少年の教育者としてのファルク」, 1931 文献表付

18,Gerhardt, 「ヴィヘルン」1巻,253頁以下索引を見よ.「まだ完成していないグラーフの伝記」

19,Gerhard Noske, 「今日の福音主義教会のディアコニー」 1956,19頁

第4章

1 6 hlhorn, 637 頁以下 「彼によるカトリック女性の慈善事業の見解の叙述」

2 4 chnabel,.420頁以下

3 .Beyreuther, 「内国伝道における、教会の生き方としての協会」,1960, ノート8/9.

4 . Beckmann, 「先駆的慈善事業における福音主義」.1927 - J, Whitney, 「エリザベス・フライ.1939年ドイツ」- H. Ziegler, 「エリザベス・フライ」 (Gotteszeugen 24), 1956

5 3 . Reme A, Sieveking; 「キリスト教女性運動の女闘士」, 1911勇

. Haupt,「A. ジーベキング」, 1933 - L. Larsen, 「信仰覚醒と合理主義の間, 1959, 115 頁以下, G.Fliedner, 「テーオドーア・フリードナー、その生涯と業績」, 1-111, 1908-1912 -M. Gerhardt, 「Th. フリードナー、肖像」, 2 B 舅 de, 1933/37 - Anna Sticker, 「近代看護の成立『19 世紀の前半の資料』」, Stuttgart 1961 - Anna Sticker, 「テーオドーア・フリードナー」, Neukirchen 1959 (縮小版 1) - Anna Sticker, 「フリーデリケ・フリードナーと女性ディアコニーのはじまり」, Neukirchen 1961 (縮小版 II) -Hermann Schauer, 「女性は任務を発見する」, G tingen 1960 「1 世紀を経て、女性ディアコニーの最初の叙述」 (縮小版)- 「多くの資料が母の家の歴史について記述している、ここで使うことは出来ないが、明確に示しておく. 観察者の記録は実際にそのことを補う」. Hans Lauerer bサの他参照 「ディアコニー施設、ノイエンデッテルスアウ 1854 年から 1954 年」- 「ディアコニー事業も同様に兄弟の家の個々の記録を持っている」.

8 4 ticker II, 41 頁以下

9 4 ticker II - H. Simon, 「ロバート・オーウェン、その生と現代にたいする意味」, (1905) 1925

10 4 ticker II, 63 頁以下

11 4 ticker II,95 頁以下

12 o 繼 L 参照, 202-206 頁, 209 頁, 213 頁等々

13 o 繼 L 参照 ,172 頁

14 o 繼 L 参照 ,318 頁等々

15 o 繼 L 参照 ,162-164 頁

16 elege 上記参照 , 186 頁

17 6 hlhorn , 734 頁

18. Sticker 1,58 頁

19 4 ticker 1, 18 頁以下

20 o 繼 L 参照 ,74 頁

21 4 chauer 43 頁 -Sticker II, 84 頁以下

22 6 hlhorn ,729 頁, 135 頁等々 - Schauer 56 頁, 74 頁等々

22 4 chauer 79 頁等々

24 lorence Nightingale, 「看護ノート」, 1858 (ドイツ語1861)- E. F. Dodd,「ナイティンゲール」, London 1958 - Rudolf Erckmann, 「フローレンス・ナイティンゲール」, Elsa Brandstr , Via humanak の「人の幸せ」のなかにある, M chen 1959, 129 頁以下

25 a u フリードナーとヴィヘルンの関係」 Gerhardt, 「ヴィヘルン II」参照, 34, 37 頁, Wichern III, 183, 191, 348, 394, また 164, 93, 231, 254 頁, また II, 150, 383 頁等々

26 4 chauer , 62 頁以下

27 artin Gerhardt,「内国伝道の 100 年、ドイツ福音主義教会の内国伝道委員会の歴史」 2 部, G ersloh 1948 (縮小版: CA 1, CA II), ここ CA II, 163 頁

28 4 chauer, 71 頁以下

29 o 繼 L 参照 87 頁以下

30 4 ticker 1, 85 頁以下

31 . Ganzert (Herausgeber)「ヴィルヘルム・レーエ、著作全集」, 7 巻 .1951 頁以下 - H. Kressel, 「ヴィルヘルム・レーエ、説教者として」, 1929 - 同所「ヴィルヘルム・レーエ、典礼者として」, 1952 -「ヴィルヘルム・レーエ、牧師として」,1955- S. Hebart, 「教会のヴィルヘルム・レーエ . その職務と統治」, 「私たちの仕事内国伝道のイロハ」, 1948, 161 頁以下 (縮小版 .ABC)

32 4 chauer . 84 頁

30 5 heodor Schober, 「教会の宝である施設、ルター派のヴィルヘルム・レーエ、ヘルマン・ベッツエル、ハンス・ローラーに流れているディアコニー奉仕」, Neuendettelsau 1961 (縮小版: Schober) S. 17,

34 4 chober 30 頁以下

35 o 繼 L 参照 25 頁

36 o 繼 L 参照 24 頁

37 o 繼 L 参照 24 頁

38 o 繼 L 参照 83 頁
39 o 繼 L 参照 31 頁
40 4 chauer 104, 107 頁以下
41 o 繼 L 参照 110,147 頁
42 o 繼 L 参照 102 頁
43 rich Beyreuther, 「エバ・フォン・ティレ・ヴィンクラー」, Via humana, 1958, 231 頁以下 -Walter Thieme, 「母エバ、エバ・フォン・ティレ・ヴィンクラーの業績と生涯」, Kassel 1955, Margot Witte,「偉大な冒険、 エバ・フォン・ティレ・ヴィンクラーの思い出」, Berlin 1957
44 Schauer, 126 頁
44* n Q 照 , 福祉学校「福音主義教会辞典」, 1959, Spalte 137 頁以下
45 anna Schomerus, 「福音主義ディアコニー協会とシュヴェスターの当初３つの慈善像」, Berlin 1961, 9 頁以下 -Schauer, 134 頁以下 , 「シャウエルはツインマー教授と彼の業績の意味に関する出版物を出した」- Friedrich Zimmer,「福音主義ディアコニー協会」 (1895) 1918, 「福音主義ディアコニー協会の 10 年」 (1904) 1911 (Gro°mann による編集)「マティルデ・ツィンマー施設の娘の家」, 1909,「看護における女性奉仕年」, 1910
46 a u 共同体ディアコニーの家の基礎」Hans von Sauberzweig 参照「彼は主人、私たちは兄弟、共同体運動の恵みに満ちた歴史」1959, 470 頁以下 - Fritz Mund, Theophil Krawielitzki, 「新覚醒運動とデイアコニーの歴史からの証言」, 1954. 「福音主義に基づく新しい修道会長 - フリードナー , レーエ、ボーデルシュヴィンクと並んで、信仰覚醒とディアコニーの指導者 , そのシュヴェスター制度はやがて 4 千人のシュヴェスターを母の家に包括した」 (1962)
47 o 繼 L 参照 Krawielitzkis 「シュヴェスター職の光におけるディアコニーの歴史の内的任務」 100 頁以下
48 4 chauer . 137 頁以下 - Hans von Sauberzweig, 「彼は主人、私たちは兄弟、共同体運動の恵みに満ちた歴史」 1959, 470 頁以下

49 4 chober　6頁
59 o繼L参照109頁
51 4 chauer 122頁以下 -ABC, 232 頁以下
51　Th. Schober, 「母の家ディアコニーにおける生と奉仕の方式の現代的正当性」, 1959

第5章

1, Eugen Gerstenmeier, 「ヴィヘルンII、ディアコニーと社会福祉との関係」, Herbert Krimm,「教会のディアコニー職」498頁以下 -Helmuth Schreiner,「ヴィヘルン、レーエとシュテッカー」 Krimm,「教会のディアコニー職」, 317 頁以下 (縮小版: Schreiner) - Karl Kupisch.「社会主義の100年と教会」 Berlin,1958 (Kupisch 縮小版) - 同所「敬虔主義から共産主義へ」, Berlin 1953 (縮小版: Kupisch II) - Hanns Lilje, 「この世における慈善の課題」, Hamburg 1959 (縮小版 Lilje) - Martin Gerhardt, 「ヨハン・ヒンリッヒ・ヴィヘルン」,3巻,1927頁以下 -Karl Janssen,「 J.H. ヴィヘルン、手紙選集」, 2巻, 1956,G　ersloh (縮小版 Janssen I, II) - K舩he Jaffke,「 J. H.ヴィヘルン,資料」, 1960.
2,Janssen, 「概論」
3, Lilje 5 頁以下
4,上記参照7 頁 - Eberhard Schmid, 「監獄と刑務所」, KI. Vanden-hoeck-Reihe 101
5,M. Gerhardt, 「青春日誌、青年ヴィヘルン」, 1925 - Peter Meinhold, 「ヨハン・ヒンリッヒ・ヴィヘルン、全集」, 4巻I と II, Berlin, 1958と1959 (縮小版: Meinhold, 4/I, 4/Il).
5*,I. Larsen, 「信仰覚醒運動と合理主義の間」, 1959
6,H. E. Frh. von Kottwitz, 「救貧制度について」, 1810- 同書「私の信仰告白から」, o. J. - J. I. Jacobi,「コトヴィッツの回想」1882 -A.Schultze, E. 「フォン・コトヴィッツ」, 1903 - E. F. Klein,「バロン・フォン・コトヴィッツ」,o.J. W.Wendland, 「ベルリンにおける信仰覚醒運動研究」 ,「年報;ブランデンブルク教

会史」, 19, 1924,5-77頁) - W. Philipps,「古代ベルリンにおける慈善家」, 1957.

7 ,Kupisch II, 11頁以下

8 ,Janssen II, 9頁以下. - Schnabel 439頁以下-Meinhold 4/I

9 ,Meinhold 4/II.

10,Schnabel 430 頁以下 - Karl Krummel,「J. H. ヴィヘルンの救助問題」, 1949.

11,Janssen II, 9頁以下

12 ,上記参照

13 ,上記参照

14,Kupisch I, 48頁

15,Kupisch II, 11頁以下

16,Schnabel 435頁- Richard Grunow, 「ヴィヘルン、呼びかけと応答」,1958,125頁-Joh. K ne,「真の愛の出発から」,T ingen 1949「ドイツ福音主義教会の内国伝道中央委員会の設立を記念して」 (縮小版 K ne),17頁

16*, Martin Gerhardt, 「ヨハン・ヒンリッヒ・ヴィヘルン」, III巻 1931, 83頁以下, 89頁, 注

16**, 上記参照.9頁以下

16*** ,Johannes Steinweg参照 「内国伝道と私の生涯の教会奉仕」, Berlin 1959, 11-15頁

17, K neS 7頁、同様に注 83 頁 VI章

18, 上記 18 頁

18*, 上記参照

18**, Gustav Rautenberg, 「ヴィヘルンとシュレージェンの救貧施設」, 1957

19 , Schnabel . 437 -Kupisch I, 51 - Grunow, Wichern, 129頁以下

20 , Grunow, Wichern, 130.

21 , Janssen I, 43頁以下

22 , 上記参照.

23 , Rolf Kramer, 「J. H. ヴィヘルンの場合、民族と神学」, Hamburg 1959 (縮小版 Kramer) 188 頁.

24 , 上記参照.189 頁 - すなわち、ヴィヘルンの息子が「国家に対する反逆的な発言」を原稿から抹消するために、彼の父の死後赤鉛筆で仕事をしたと思われることは、注意を払うべきである. ヴィヘルンの手紙の遅刊の中で、私たちは「初稿」だけを持っていない. ペーター・マインホルトによって出版された「ヨハン・ヒンリッヒ・ヴィヘルン全集、1958 版」は最初の原本にさかのぼる

25 , Otto Dibelius, 「ディアコニー責任における教会入会—クリスティネバーベックとH.D. ヴェントラントによって発行された教会と世界の間のディアコニーの中で」, Hamburg 1958, 12 頁.

26 , Janssen,39 頁 - M. Gerhardt, Wichern, II 巻.

27 , ヴィヘルンは、「内国伝道」について、国民教会内部の内国伝道運動について、同様に書き、語った. ヴィヘルンの死後、制度的なもの、優れて純粋な施設思想と評価された. その時、世紀は変わり始めたばかりで、「内国伝道」について語りまた書き始めたことは単なる偶然ではない. 私たちは今日統一的な表記法で「内国伝道」を用いている

27* , Janssen, 25 頁以下.

今日の人はヴィヘルンの「ロマン的 - イデアリズム的特徴」を殆ど強調しないだろう. 「厳しい重荷としての内国伝道の歴史」は進歩的楽観主義との関連で、悩んできた. その後、ヤンセンは彼の神学の基礎をつくりあげて、クランマーの研究を本質的に補足、もしくは、修正をしている. それは「神学者、教育者、ヴィヘルンの特色であり、いつも彼の傑出した構想全体の中を生きることであり、そしてなおその構想の中で、同時代の非常にわずかだと思われる統一性を整理することである.(カール・ヤンセン、マインホルトの資料出版の書評における)、人はヴィヘルンの熱狂的でロマンティクな神の国思想を、無条件に語ることはできない. 状況はむずかしくなっている. ドイツ国民全体についての愛国心と心配、それはなお、多元的社会の枠の中でとらえることは出来なくなっており、

ヴィヘルンが、その世紀の重要人物のように、例えば、フリードリヒ・フォン・ボーデルシュヴィンクやアドルフ・シュテッカー、フリードリヒ・ナウマン等々のように、重要な役割を演じることはできない」

28, CAI,9頁以下

29, J. H. Wichern, 「ドイツ福音主義教会の内国伝道、ドイツ国民についての報告書、1948年の新刊」- Erich Beyreuther, 「J. H. ヴィヘルン」, in: Via humana, 1958, 82頁以下

30 , Kupisch I, 59頁

30*, 上記参照 59頁

31, 上記参照

32, 上記参照 51頁

33, Janssen I,44, 52頁上記参照 - Schreiner 337頁. - E. Beyreuther, 「宗教の敵対関係と世俗化、青年ヴィヘルンの評価の定まらないところ」- 同じく、伝統と改革. 青年ヴィヘルン批判への批判. 2つは E. Beyreuther の、信仰と神学にある, Hildesheim 1980, 281-304頁 - それについては同じくE. Beyreuther, 「ヴィヘルンの共産主義批判」, 「ディアコニーの影響を受けた分野としての社会、世界、教会、国」, Stuttgart 1981, 55-62頁 - 同じく同書 P. Meinhold, 「ヴィヘルン仲間たちの発端となった言動」, 19-36頁 - F. W. Kantzenbach, 「ディアコニー構想の基礎としての弁明の教理」.J. H. Wicherns, 69頁 から73頁 - A. Funke, 「ヴィヘルン - レーエ - ボーデルシュヴィンク」74-78頁 - K. Janssen, 「内国伝道とヴィヘルンが説く神の国」, 82-86頁 - H.-G. Schuitz, 「ヴィヘルン批判への批判と教会グループ化」 91-96頁

34,Janssen I,44頁以下

35, Kupisch II,57頁以下

36, E. Thier,「弁証法的唯物論、福音主義信仰と社会的責任における」, Berlin 1959, 21頁以下

37 , 上記参照.

38 ,Janssen I,46頁
39,Janssen I,46頁からの引用
40 ,Janssen I,56頁
40*,上記参照．注 36, 21 頁以下
41,Karl Janssen,「時代の変化における理論と実践、団体ディアコニーの課題」, Stuttgart 1960, Klaus von Bismarckから出版, 22頁以下
42 ,Janssen I, 51頁からの引用
43,上記参照
44,Schreiner,336頁
45, Kupisch I, 45頁以下
46, Kupisch 1, 55頁- K ne 26 頁以下-Grunow, Wichern, 141 頁以下 - Kupisch II, 100 頁以下
47, CA I, 137頁以下138-141,146,147頁以下
48, 上記参照．
49, K ne 30頁- Schnabel 436 頁- M. Simon,「19世紀と20世紀のバイエルンにおける福音主義ルター教会」, 1961, 63 頁以下
50, Schnabel 440頁以下- CA I, 17頁以下
51 , CA I,183頁以下- Kupisch II, 37 頁以下「人は、他方で、ヴッパータールの人たち、また古宗教改革者(ルター派の人たちも同様に)の商人魂と敬虔主義者がしばしば不思議に交じりあっているところで、1830年ごろに、どのように慈悲深くあったか、それに「住宅難」のために、彼らがなにをしたか見逃すことはできない．人はまた、ヴッパータールの人たちが、まず第1に地区の福祉助手制度を共同体・教会のなかに発展させたことも忘れられてはならない．地方自治体の福祉奉仕も同じように受け継がれた．内国伝道事業の中で、ヴィヘルンの時代とその後の時代にヴッパータールは他の宗教的また教会的に生きている地域より劣ってはいなかった．」
52, Schnabel 440頁
53 ne 30頁-Schnabel 436頁 CA I,153頁
54 4 chnabel 436頁等々

55 erhard Noske,「教会ディアコニーのヴィヘルンプラン」, 1952 (縮小版 Noske),12 頁以下
56 oske 58 頁以下
57,CA I, 176- Noske 58 頁以下
58, 上記参照. 注 25, 13 頁以下
59,Paul Jostock,「ヴィルヘルム・エマヌエル・フォン・ケッテラー」Via humana, 1958, 89 頁以下
-Th. Brauer,「ケッテラー, ドイツ監督と社会改革家」, 1927- L. Neuefeind,「ケッテラー監督と彼の時代の社会問題」, 1927 - P. Jostock,「社会的覚醒家としてのケッテラー監督」(世にある教会, 5, 1952, 221-226 頁)「私たちは以下の詳論の中で、ドイツの労働者の情況の全く基本的な困窮を言い表すために、またこの情況をやわらげることのないために「プロレタリアート」ということばを使う
60, Noske 78 頁以下
61, E. Beyreuther,「ヴィヘルン」 Via humana, 68 頁以下
62,CA I, 295 頁以下 -Kupisch II, 103 頁以下 -K ne 33 頁以下 - Kupisch I, 56 頁以下
63,CA I, 299 頁以下 -R. Elvers,「エメ・フーバー」, 2 巻, 1872-74 - K. Munding,「V. A. フーバーの選んだ手紙」, 1894 - E. Thier,「教会と社会問題」, 1950 - L. Paulsen,「社会政治家としてのV. A. フーバー」, 1956.
64, CA I, 296 頁からの引用
65, CA I, 301 頁以下
66, 上記参照 305 頁以下
67, 上記参照, 注 441, 22- また注 1,Gerstenmaier,499 頁

第 6 章
1 A II 5 頁以下
1* A II.7, 8, 12 頁 - Hanns Lilje,「現代世界における慈善の課題」, Hamburg 1959, 8, 9 頁

2 o 繼 L 参照
2* . Stephan, Hs. Leube, 「教会史ハンドブック」, 4 版 1931 II, 292 頁以下
3 AII,17 頁以下
4 o 繼 L 参照
5 8 alther von Loewenich, 「教会史」, 1948, 377 頁以下
6 upisch 1, 86 頁以下 - CA II, 60 頁以下
7 o 繼 L 参照
8 upisch 1, 89 頁以下 - K ne 36 頁 - CA II, 63 頁以下 .
9 rich Freudenstein, 「内国伝道の制度と生成」 1948 (Freudenstein 縮小版)50 頁以下
10 A II, 64 頁 - K ne 35 頁
11 A II, 71 頁以下
12 o 繼 L 参照
13 5 heo Pirker, 「前世紀の幻が問題である」, M chen 1961 (縮小版: 100 年), 271 頁
14 ermann Klemm, 「エリアス・シュレンク」, 「伝道者の道」, 1961 (縮小版: Klemm) 索引参照「シュレンクと内国伝道」
15 lemm, 333 頁以下 , また 299 頁以下
16 lemm, 407, 386 頁以下 , 421 或いは 388 - CA II, 148 頁以下
17 lemm, 390 頁以下
18 o 繼 L 参照 407 頁以下或いは 390 頁以下
19 o 繼 L 参照 421 頁
20 o 繼 L 参照 422 頁
21 o 繼 L 参照 411 頁
22 A II, 133 頁以下 - Ferdinand Schr er, 「祖国と異国の間の人 , ヨーロッパの歴史における遍歴者に関する国と教会の関係」, Stuttgart 1960 (縮小版: Schr er) 118 頁以下 或いは 123 頁以下
23 AII,164 頁以下
24 4 chr er 135 頁

25 o繼L参照134 或いは137頁
26 o繼L参照134頁等々
27 o繼L参照128頁
28 lfred Adam, 「フリードリヒ・フォン・ボーデルシュヴィンク 1831-1910」, Via humana, M chen 1958, 195頁.
29 o繼L参照199頁
30 eorg Merz,「教会がなす牧会奉仕」, 1952, 84, 78頁. (縮小版: Merz)
31 o繼L参照
32 00頁の注28参照
33 artin Gerhardt, 「フリードリヒ・フォン・ボーデルシュヴィンク」, 1巻 Werden und Reifen,1950 同書2巻「全集 前半」, 1952 - 同書とAlfred Adam, 2巻 「全集後半」, 1958 (縮小版 Gerhardt I)-Gerhardt I, 191
34 erhardt, II, 191 頁以下
35 erhardt, I, 412頁以下- G. von Bodelschwingh, 「フリードリヒ・ボーデルシュヴィンク」, o. J., 144頁
36 erz85頁
37 o繼L82頁以下参照
38 o繼L90頁参照
38 o繼L 86頁以下参照. - Gerhardt, II, 571頁以下.
40 erhardt, II, 278頁以下と II, 532 頁以下.
41 o繼L参照II,281頁以下
42 o繼L参照II, 555頁
43 o繼L参照II,560頁以下
44 o繼L参照563頁
45 o繼L参照II,578-CAII,81頁以下
46 erhardt II, 580 頁等々
46* o繼L参照II, 417 頁以下
46* * o繼L参照II,440頁以下, 473頁以下
47 o繼L参照11,597頁-ABC51頁

48　erhardc II,703 頁

49　erhardt III, 225 頁

50　s, Brandenburg, 「アドルフ・シュテッカー」, 1958, 89 頁(縮小版: Brandenburg) -Adolf Stoecker, 「キリスト教社会主義」(1885) 1890-2: 「宮廷説教師の 12 年」, 1895,「35 年の説教 , 聖書日課におけるイエスの生涯」, 1909-2 - Dietrich von Oertzen, 「A. シュテッカー , 生涯と現代史」, 2 巻, 1919 -Friedrich Naumann,「創造と創造者」1919, 106 頁以下. - Reinhold Seeberg, 「A. シュテッカーの演説と論文」, 1913 - Paul Le Seur, 「A. シュテッカー」 1928- W. Frank, 「宮廷説教師 A. シュテッカーとキリスト教社会主義」

Bewegung, 1928 Ernst Bunke, 「A. シュテッカー ,1938」 (縮小版: Bunke) -Karl Kupisch, 「アドルフ・シュテッカー , 福音主義信仰と社会的責任における , 課題 - 業績 - 遺産」, 1957.

51　unke, 10 頁以下

52　randenburg 19 頁からの引用

52*　**o** 繼 L 参照 24 頁

53 4 chreiner, 339 頁以下

54　einrich Hermelink, 「フランス革命から現代にいたるまでの , 人間性の歴史におけるキリスト教」, III. Band, 1955 (縮小版: Hermelink III), 10 頁以下

55 o 繼 L 参照 .14 頁以下

56　randenburg 67 頁からの引用 - Bunke 81 頁以下 . 国教会自身が悪であるということは全く間違っている . 教会はそのような国教会を変わらなくしたのではない . ヨーロッパには , そのなかで教会と牧師が自由を感じる , 生きた教会がある . 国は国家経営をより良くする外務行政によって教会と牧師の負担を軽減した . その結果教会は自分の事柄に取り組んだのである .

57　randenburg 68 頁からの引用

58　ermelink III, 168 頁

58*　rich Schnepel, 「東ベルリンからの便り」, 1. Bd 1935, 2.

Bd. 1950.E.Schnepel はこの経験が1920年より後の報告からきていることを確認した.

59 ermelink III, 169頁

60 randenburg 80頁- Hans von Sauberzweig,「彼はマイスター,私たちは兄弟」,1959, 479頁以下- Karl Kupisch, 「ドイツ CVJM」, 1958, 22頁以下

61 erhardt III, 218 頁- CA II, 66頁以下

62 erhardt III, 219頁

63 o繼L参照

64 upisch II, 注を参照50,69頁以下- Kupisch II, 153頁以下

65 unke, 36頁以下からの引用

66 ermelink III, 298 頁- Gerhardt III, 226頁.

67 ermelink III, 299頁以下

69 o繼L参照300頁

68 erhardt III, 232頁

70 A II, 83 頁以下 - Gerhardt III, 246頁 - Hermelink III, 303頁

71 erhardt III, 265 頁以下

72 erhardt III, 270 頁- CA II, 106頁

72* unke 62頁

73 randenburg 63頁からの引用

74 . Schreiner, 「権力と奉仕」,アドルフシュテッカーの教会の自由のための闘い, 1951 - Schreiner 349頁 (Krimm,「教会のディアコニー職」の中にある)

75 randenburg bゥらの引用, 90頁

76 ranz Schnabel,「19世紀の拒絶」 100 年, 191頁 -CA II, 109 頁以下- K ne 36頁以下- Freudenstein 54頁以下

77 oh. Rathje,「自由なプロテスタントの世界」, 1952 (索引を見よ) -Hermelink III, 320頁 11. CA II, 115頁以下

77* j v命的階級闘争とSPDの中で,労働組合によって支持されたインタレッセン党との間の緊張は,特にそのスポークスマンG.フォ

ン・フォルマーにより，南ドイツの諸州の党で明らかになった．南ドイツにおいては，地方自治体と個々の国で社会民主主義労働者たちは，国に補償された学生自治会と同じように，成長し，具体的な体験と影響と力を得た．修正主義のグループの中では，カール・マルクスの「科学的」命題は現在の経済的発展によって論破されるようになった．それと違って，党の最高首脳たちは，破綻した急進的マルクス教条主義に固執し，ほとんど活動せずに，マルクスの教えにより，資本主義社会の没落を待ち，「窮乏化の理論」により，窮乏化し，増加し続ける選挙人を信頼した．「そこで帝国における社会民主主義政治は場合によっては孤立した議会のアジテーションさえも許すほどに教条的に硬直した．ところが運動の実際の力は適当な影響力を帝国の政治に及ぼすことを怠ったのである．」　RGG³-3巻参照．VI，Sp，154頁以下

78　erbert Hupka，「フリードリヒ・ナウマン」，341 頁以下.100年- Theodor Heuss，「フリードリヒ・ナウマンとドイツ民主主義」，1960- 同じくFriedrich Naumann，「全集，時代(1937)」1950²- Fr. Naumannによる選集，H. Vogtによる選集，1949 -M. Wenck 「国家社会主義の歴史」，1905　G. B舫mer，「時代の変わり目を生きた人生行路」，1933　E. Thier，「教会と社会問題，ヴィヘルンからナウマンまで」，1950 - R. N　nberger，「F. ナウマンによる帝国主義，社会主義そしてキリスト教」(歴史．年報170，1950，525　48)

79　upka S.351頁

79* a uFr. ナウマンは全ドイツにある福音主義青年労働者教会運動に活力を与え，一方で内国伝道の協力牧師としてフランクフルトで活動した．彼の情熱は教会が行う宣教にあるのではなく，そのようなものとしての社会政策であり，アドルフシュテッカーとは違っていた．」

80　upka　343 頁- Ober Siegmund-Schultze: H. Maus, Er. Siegmund-Schultze（世界教会のプロフィル11/4)，1952 - J. Rathje,「自由プロテスタントの世界」，1952（索引を見よ）- CA II，117，

245 頁

80* ermelink III, 285 頁以下 - RGG3-3 巻 . VI, Sp, 202 ,「社会改革」-「カトリックカリタスの歴史について」J. A. Fischer,「現代におけるカトリックカリタス」Krimm,「教会のディアコニー職」388 頁以下

81 A II, 118 頁以下

82 BC 43 頁以下

83 A II, 139- Joh. Steinweg,「私の生涯における内国伝道と教会奉仕」1959, 40 頁以下

83* 8 . Thun,「ドイツ福音主義海員伝道の成立と発展」, 1959

83 4** chnabel 200 頁 ,100 年 -CA II, 121 頁以下

83* A II, 25 頁以下 , 197 頁以下 - Steinweg 上記参照 , 注 83, 11 頁以下 . これについては注 7,IV 章を参照 - Ernst Schering,「変化する世界の中でのディアコニー , ディアコニーの変遷」Bielefeld 1958, 63 頁 - 男性ディアコニーの歴史は , 大変望ましいものである . 内国伝道の歴史はその発展段階の全体の中にあるディアコーンの歴史の中に描かれる . 内国伝道のこの歴史は引き続きカリスマの持ち主の歴史から , 男性ディアコーンと女性協力者ディアコニッセ (ディアコニー・シュヴェスター) のもとにあるように , 神学者のもとにある . ドイツ社会運動の中の兄弟の家の成立 ,St. クリスコナ , ヨハノイム , バーンアウエル , 説教者養成学校, マールブルク・タボル兄弟の家(Lahn) ノイキルヘについて Kr, Moers, Liebenzell, Hans von Sauberzweig,「彼はマイスター, 私たちは兄弟」, グラナダウ社会運動の歴史を参照 1959,466-473 頁

84 A II, 162, 164, 170, 186 頁 - Hermelink III, 644 頁「福音主義書籍出版」, 1961, 福音主義書籍出版協会 , Stuttgart より出版 .

85 A II, 166 頁 - Ernst Bunke,「クノーベルス村のクルト」, 1958

85* BC 122 頁 - CA II, 160 頁以下 - Th. Hoppe,「オーベリン」, 1930 -R. Kleinau,「オベリンハウスの 75 年」, 1940

85 3** GG2「女性解放運動」Sp, 742 頁以下 - RGG3「婦人解放運動」

, Sp.188 頁以下 -CA II, 188 頁以下 - Hermelink Ⅲ ,643 頁 - CA II, 283 頁以下 - 「福音主義教会辞典」, 1959, Sp. 1837 頁以下 - Joh. Steinweg, 「私の生涯における内国伝道と共同体奉仕」 1959, 85 頁以下 - Christine Bourbeck, 「内国伝道福祉の 50 年」, 「内国伝道」Jahrgang 1954, 332 頁以下 .「内国伝道学校の始まり」或いは .「内国伝道福祉学校の始まりは 1904 年である . ベルリン・シュパンダウにあるヨハネシュティフトに所在する最初のドイツ福祉学校は 1954 年 10 月 30 日に 50 年の存続を祝った」 - CA II, 193 頁「1909 年 10 月 13 日を開校の日と呼んで, その時 , どうやら福祉学校の公式の引継ぎがなされていた . すでに「チャペル協会」と「少女福祉協会」が中央委員会によって開設されていた .

85*** A II, 132 頁以下 -Hermelink III, 633 頁以下

86 A II, 217 頁

87 o 繼 L 参照 183 頁以下

88 3 GG3-3「論評」 Sp. 550

89 8 ilh. Brandt, 「ベーテル ,19 世紀内国伝道の歴史 , ドイツ福音主義教会広報」 *2.* Jahrgang, 1948, 60 頁 . 中央委員会歴代委員長 vgl. Ca II (索引)-K ne 47 頁 .Friedrich Albert Spiecker (1854-1936)卓越した委員長・人物であった .

第 7 章

1,CA II, 204 頁 -RGG³ 3 巻 , Sp,93 以下 - Freudenstein 72 頁 - K ne 48 頁 -Karl Kupisch, 「ドイツ CVJM」 1958, 46, 84 頁 .

2,Ereudenstein 69 頁

3,Eranz Schnabel,「19 世紀との断絶」, 205 頁 ,100 年

4,K ne 49 頁以下 -CA II, 224 頁以下 - ワイマール共和国は次のことに基づいていた、即ち、労働者階級と市民階級の譲歩、そして、中道の市民党、(中央党とドイツ民主党) の連携の中でのみ、社会民主主義のワイマール憲法を作ることができた . 革命的な社会民主党が 1918 年 11 月にいやいやながらも革命の先頭に立つという歴史的功労は、その後に最初の帝国大統領をエルベルトにもたらした . 彼

はプロレタリア独裁の政党政治思想を認めず、一般市民と一緒になってすべての極左のスパルタクス反乱を打倒した．そこで、ドイツ社会民主党は選挙民大衆を奪おうとし、常に共和国をつよく敬遠するドイツ共産党の増大する圧力下にあって，真の国の主要な政党となった．市民党はドイツ社会民主党に反対するナショナリズムの興奮したデマの影響を受け，いっそう距離をおいて硬直した．最終局面で共和国は、赤色戦線と国民社会主義ドイツ労働党(ナチ党)にはさまれ、ドイツ社会民主党は操縦機能を失い、実際に助けを失い全ての権力を奪われ、1933 年に解散を受け入れた．RGG³6 巻「社会民主主義」

4*, 社会福祉立法は，ワイマール共和国において，帝国労働省のH．ブラウン(1868-1939）の指導の下，国際的承認を得、「社会主義カトリック」の手の中にあった．

5, 福音主義教会はとりわけ中部と北部ドイツにおいて、1918 年以降、民族主義また市民階級にいたるまで，不毛な君主的民族の伝統の中に広く行き渡っていた．そのため福音主義上級議会の悔い改めの呼びかけは、ベルリンで1918 年の革命の年、ホーヘンツォレルン家の人々への感謝と忠誠を告白し、またプロイセンの上級総監督の表明をもって、ヴェルサイユ条約の署名に従い、またあいくち伝説[第一次世界大戦の敗因を銃後の撹乱にあったとする説]に無批判に同意するようなナイーブさを証明した．1918 年の教会年報のなかで、307 頁以下特に319 頁でJ シュナイダーは次のように書いている．すなわち、今も強いドイツ陸軍は民間人によって後ろから刺殺された．ドイツ海軍の兵士たちはこの行動を軽蔑するばかりであった．彼らは反乱をおこし、敵に船を引き渡し、死なないで反抗する方を好んだ．もしここで日々のニュースが引用されるならば、あふれるばかりの賛成で歓迎されるだろう．

5*, 重要な社会福祉法はたとえば次のものに先立っていた．すなわち、世界戦争の間の夜間労働禁止，7 時閉店、65 歳年金給付の引き下げ(1919)、そしてワイマール共和国の間、1918 年 11 月に雇用者による労働組合の権威の明確な承認、8 時間労働、会社ローン法(1920)、

帝国炭鉱労働者法(1923）失業者斡旋と失業保険法(DAVAYG)(1927)、健康保険組合の家族給付金(1930）．最初の社会福祉の努力は、教会年報においては憎たらしく論評され、純粋培養された劣悪なエゴイズムといわれた．1日8時間の法は、彼らに「とてもばかげた，国民経済を誤った、まさに怠惰の親方」であった．教会は労働者と距離をおき他方に不信を残した．そうではあるが修正主義の影響は社会民主主義の内部で、この進歩党に対する改革によってつくり直された．人はそこにとりわけキリスト教と教会離脱に固執した．はじめは共同の圧力のもとで、全体主義的な力によってある種の和解がなされた．社会民主党は告白教会の闘いを見守り，新しい社会的責任に対する意志を牧会、福祉，父のように忠告する父権主義のやり方にだけ求めるのでなく、日常の共同生活の課題を，国が意のままに牛耳ろうとするすべてから自由にするところの責任意識を求めた．第2次世界大戦後にドイツ福音主義教会とイギリスのキリスト教との間に世界教会の関係が生まれた．それは教会と社会主義の努力の間にある矛盾を知らない教会とドイツ社会民主党の間の新しい率直さを生み出した．1959年ドイツ社会民主党の原則はマルクス主義の思想から教条的なものを取り除き、社会主義の代用宗教を意味するものではないと説明した．単純な抜け目のない見解ではなく、両方の側を誠実に理解し、真の自己意識をここに定めた．ドイツにおける社会主義と教会との間の関係があからさまな敵意をもってはじまった．それは労働者グループの大離脱運動と反教会の中で頂点を見、今は「過去の負債を思うとおりに扱わないで、相互に理解しようとする意志が重要である．「新しい関係は安全ではなくまた決して最終的に安定したものでもない．」RGG³4巻、SP157頁以下、教会と労働者間の重大な世界観上のキリスト教の協議、それはかなりの程度まで、教会の生活から遠ざかり、彼らを理解しようと苦労する、内国伝道と教会の偉大な課題としてある．労働者階級の内部において広いグループは－これまでマルクス主義世界観の中で、史的唯物論の中で，彼らの内的故郷を持っており，世界観の故郷喪失者となった．

6 ,CA II, 224 頁 - 社会福祉活動について「福音主義教会辞典」 1959,「福祉」-Job.Steinweg,「福音主義教会の内国伝道，その存在と活動の概論」 1928, 82 頁以下 - おなじく「私の生涯における内国伝道と共同体奉仕」87 頁以下 - オールへの記念論文集 「業績と道」 1954 - Gerhard Noske,「今日の福音主義教会ディアコニー」,1956,9 頁以下

7 ,K ne 53 頁 -Johannes Steinweg「私の生涯における内国伝道と共同体奉仕」 1959,110 頁以下 Steinweg, 155 頁以下

8 ,K ne からの引用 50 頁

8*, K ne ,51 頁 - CA II, 267 頁

9, CAII,33 頁

10,Otto Dibelius, ディアコニーの責任における教会加入， 15 頁，「教会と世界の間にあるディアコニー」, Hamburg 1958-Steinweg 122 頁以下

11,K ne 57 頁以下 - Freudenstein 82 頁以下

11*, 内国伝道の内部はまったく人的グループと施設があった．それは国家社会主義に対して目を閉じたままであり、まず第２に遅らせるために敬遠した．そこに警告の声もあった．霊的識別能力は欠けており、しばしば危険な政治的無関心、または社会学的にみれば小市民の環境があり、汚れた国家主義であった．しかし、人はここで非常に慎重な判断をしなければならず、８時間外を許されなかった．すなわち国家社会主義に内国伝道内の人たちが逮捕されたことがあり、彼らはこの時代を生き残るかぎり、率直にその罪を認めて，悔い，事例に倣い，沈黙を守る方を選んだ．

12, Schauer 171, 173 頁以下

13, Freudenstein. 186 頁

14, ABC, 51 頁 -Freudenstein 99 頁 - K ne 59 頁 - Schauer 178 頁 -Walter Trittelvitz,「フリードリヒ・フォン・ボーデルシュヴィンク・子」 1877-1946, 1950,41 頁 - Gerhard Jasper,「ボーデルシュヴィンクとの出会い」 1958, 25 頁以下 - Th. Wurm, 「私の生涯の想起」 1953-2 - 現存するすべての資料はなお

まとまった学問的叙述に欠けている

15,Trittelvitz, 41頁 - 注14参照

16,Jasper , 37 頁 -Trittelvitz 44頁

17,Schauer 181頁 - 内国伝道の協力の下で、戦争の喪失の全体はまったく明らかになっていない .

第8章

1 ieter Franck, 「われらの生涯の時」1945-1949, 1980 8頁以下 - Marion Gr臓in D hoft, 「明日から明後日へ」- ドイツ連邦共和国の歴史について 1981- Hans-Peter Schwarz, エラ・アデナウアー 1949-1957, 1981(文献リスト付) Schwarzの縮小版

2 7 II章注11参照 -「再建中の教会 , ヴェストファーレンの教会20年から」 1969, 135頁

3 ranck 18頁

4, 上記参照32頁以下 . 証拠資料付 - Joh. Schr er, Reinhard Westen, 証言のためのハンドブックと教会の奉仕 ,V巻 ,1982, 468頁 「ハンドブック」の縮小)

5, 上記参照「ハンドブック」 V 468 頁以下 - Joh. Degen,「ディアコニーと復興、ドイツ連邦共和国における社会主義キリスト教批判」1975, 55頁 (Degenの縮小版) -「教会の行方不明者捜索機関」Herbert Krimm (編集) 「ディアコニーの歴史」について、III巻 , 1966, S, 227頁以下 - Karl Silex, 「ドイツ福音主義教会の救援事業」1945 ,1949まで . ドイツ福音主義教会の教会年報 ,1945,1948まで , 410頁 (K. Jb縮小版) 少なくとも離散した難民のことが考えられている . いかに難民がよく考えられないで分散されたか: カトリックのディエスツェッセ・ロッテンブルク について、90万人のカトリック 0万人の故郷喪失者が組み込まれている .

6, Krimm III 183頁以下 . また 225, 219頁 (小休憩の願い) - K.Jb, 1952, 1946/47年を回想する - 救援事業年報 1945-1950, 50 頁 (jb. Hw. の要約) - 非人間的な国外追放に反対する教会議会

の暫定委員会の抗議について Krimm III 222 頁

7, Franck 29 頁

6, ハンドブックV 397 頁、爆撃で焼け出された都市での生活 II, ブレーメン」 1897-1972「ドイツカリタス連盟の75年」(Alfons Fischer の編集), 101 頁、合計 250 万人の破壊された人、150 万人の 1 部の家屋を破壊された人 避難所を探している 1 千 200 万人の故郷追放者と難民 (カリタスの要約).

9,Krimm III 221 頁以下 -「カリタス」 105 頁 - Hermann Maurer,「追放された人への奉仕」Jb. Hw. 1953, 216 頁 -K. Jb. 1957, 218 頁

10, Krimm III 227 頁以下

11,Armin Boyens, 1944 年から 1946 年までのドイツにおけるアメリカ占領国の教会政治 (文献付) 7 頁以下 :戦後の教会 (教会現代史研究 Reihe B: 「叙述」8 巻, 1979) - Henric L. Wuermeling, 「白いリスト、ドイツ政治文化の勝利」1981- C. F. Latour/T. Vogelsang, 「占領と再建, ドイツのアメリカ占領地域で軍がしたこと」1944-1947 (現代史研究) o. J.- Manfred Heinemann (編集) 改造教育と再建、ドイツとオーストリアにおける占領軍の教育政策, 1970.

12, Heinrich-Johannes Diehl, 最初の時の同志, ハンドブックV .75 頁 (同志の縮小)参照 - さらに K. Jb. 1945-1948 403 頁以下 - 内国伝道は救援事業のように後で、無数の子ども給食と子ども保養を子ども保険によって行った.

13, Eugen Gerstenmaier, 「廃墟からの道」、ハンドブック V, 59 頁

14, Boyens 46 頁以下 - D hoft 40 頁 - Hanns Lilje, 「追憶」, 「生活の重点」 1973, 175 頁 - Knut J gensen,「教会の時」, シュレスヴィヒ - ホルシュタインの福音主義ルター教会, 1976, 168 頁以下 177 頁以下 -Peter Steinbach, 「国家社会主義の権力行使」1945 以降のドイツ公開討論, 1981, 31 頁以下

15, J gensen 上記参照 388 頁 (注 77)

16, Franck 7 頁 (Theodor Eschenburg の序文)

17, K. Jb. 1932 379, 383 頁 上記参照 (著者 Bodo Heyne) 「内国伝

道」というテーマの下で1933-1952，展望と見通し

18， 上記参照，386頁以下

19， Manfred Stolpe,「ドイツ民主主義共和国における福音主義教会の証と奉仕への挑戦」、ハンドブック V 90 頁以下

20， Gerstenmaier,「ハンドブック」 V 60頁（廃墟からの道）

21， Volkmar Herntrich 「われわれの救護のすべて、ハンブルク福音主義教会の4年」 1950,14 頁以下

22 aｕドイツ福音主義教会内国伝道と救援事業の年報」1973， 291 頁以下、(Jb. D要約) -Martin Gerhard，「内国伝道の100年」，ドイツ福音主義教会内国伝道中央委員会100年の歴史」1948，349頁以下

23 elga Mantels，「ディアコニーにおける女性」 ハンドブック IV .188 頁以下 -Theodor Schober，「登場した教会としてのディアコニー」 1976， 130頁以下(女性 - 低次元のみでの責任なのか？)

24 oL参照 Schober 134頁（傑出した多くの女性のためのヴィヘルン記念バッチ）

25 5 heodor Schober . Jb. D. 1964， 17頁

26， Alex Funke,「患者の癒しは最高法則」 Hans Wulf (編集)ベーテルの医師が報告したもの，1976， 9頁

27， Martin Greschat,「教会と戦後ドイツの社会」(1945-1949) 122頁，「戦後の教会」，1979 - Klaus Mehnert,「世界の中のドイツ，想起すること」 1906-1981，1981，311頁（Mehnertの要約） - Rolf Lahr,「没落と発展の証 - 私信」1934年から1974年まで，Marion Gr臓in D hoffの序文付，o，J. - Claus Hinrich Casdorff (編集)，Weihnachten 1945，「想起することの本」 o，J.

28 erstenmaier，「廃墟からの道」 55頁以下

29 ranck 106頁以下 - D hoft 41頁以下

30 emosthenes Savramis，「ドイツ社会民主党の中のキリスト教」1976， 55 頁以下

31 ehnert 310 頁以下

32 . Jb. 1945-1948 402頁 -「カリタス」 105頁

33 8 ilhelm Meinzer, 「ヨハネス・クンツ」, ハンドブック V 409 頁

34 urt Scharf, 「パウル・ゲルハルト・ブラウネ」, ハンドブック V 351 頁 - Krimm III 161 頁以下 (安楽死反対の最前列にたつブラウネ).

35 laus von Aderkas,「ボドー・ハイネ」ハンドブック V 392 頁以下 - Freda Niemann, 「エグミュード・フォン・アルヴェンスレーベン」Armgard von Alvensleben, ハンドブックV 331 頁以下

36,「カリタス」,103 頁

37, ミュンヘン内国伝道協会年報 1951 . 3 頁 - Walter G zger, 「ニヒトエスハフテンのヘルツォークス・アグミューレ」Jb. D. 1958/59 74 頁以下

38, 上記参照 「年報」1945 970 11 頁

39,「ハノーファー福音主義救援事業, われわれの活動から金融改革にいたるまで」Juni 1948, テーマ:11 万 8 千人、戦争の重症傷病者と労働について, 99 頁, 1948 年 11,10 月の日付 (原稿印刷).

40,Christian Berg, 「ドイツにおける生活環境」 1947,「ドイツ福音主義協会の救援事業研究」 1947

41,「ミュンヘンの内国伝道協会年報」, 1945-1970 - Hans Lindel, 「すべては彼の時」 1930 年から 1950 年の間のある牧師の日々の生活, 1981

42,Krimm III 183 頁 - 注 4 Z: 「ドイツ福音主義教会の救援事業」, 「指導者」 クリスマスのささげ物,1945 (gez. 総書記 Dr. Poelchau,) (原稿印刷として)- ラインとルールの十字架, イエスの名における報告、ドイツ福音主義教会の救援事業、ライン州中央事務局, 1948, 55 頁以下

43,Krimm III 255 頁以下

44,「1945 年の中央委員会の社会福祉の責任」内国伝道 1948, ノート 9/10 89 頁 - Martin Fischer, 「テーオドーア・ベンツェル」ハンドブックV 456 頁以下 - CA III 349 頁以下 - Hans von Arnim, 「テーオドーア・ベンツェル, われわれの時代の変わり目

におけるキリスト教愛の生活」 o. J, - Helmut Talazko,「戦後ドイツ福音主義教会内国伝道中央委員会の新しい始まり」ハンドブック 111 頁以下

45,Karl-Heinz Thiel, 「民間福祉の連邦労働者社会における民間福祉の先端連盟の協力」 ハンドブック III 259 頁以下

46,「カリタス」102 頁

47,Wilhelm Meinzer,「ヨハネス・クンツ」 , ハンドブック V 404 頁以下 - Krimm III 276 頁以下 - Joh. Kunze,「1945 年以前の中央委員会の社会福祉責任について」-1945 年以降の内国伝道の課題 , 内国伝道 1948,89 頁 - 継続問題、Friedrich M chmeyer , 中央委員会の活動に関する報告を参照 , 内国伝道 1950, ノート 1, 1953 . ノート 2,1954. ノート 3 ,71. 同様にノート 10,257 頁 - 採算が取れる看護法の拒絶について ,Jb. D. 1967,129 頁: 国家社会主義・ビスマルクの特徴、それは国家形態を貫く私たちの経営思想を守りつづけている - いつも慢性になるために - 憲法の社会福祉国家の責任に対して明らかな矛盾をもっている . このことは、決して、国の将来計画能力に踏み込もうとする反国家のノイローゼを意味するものではない . ここで、ワイマール共和国からの世界観の対立も早くから姿をあらわしている .- Th. Schober,「登場した教会としてのディアコニー」1976 154 頁 (Schober の論文要約).

48,Krimm III 281-「内国伝道」 1955, ノート 1 - 「税制関連政策について , フリードリヒ・ミュンヒマイアー」 内国伝道 1950 ノート 1 , 6 頁以下

49,「労働組合との会談」: ミュンヒマイアー , 内国伝道 1950, ノート 1 7 頁以下 , 1955, ノート 1,13 頁 945 年以降の労働運動の分析に関して ,Schwarz 407 頁以下参照(注 1)-Helmut Seifert a u 法と経済委員会報告」,「幻想ぬきのディアコニー」- ディアコニー協議会の記録 13-1950,11.15, ベルリン , 1980, 87 頁 (ディアコニーの正しいかたち) 施設の父権的指導の分離について K. Jb. 1952 406 頁以下 -Rudolf Weeber, 委託された共同研究を伴う財政、教会の人事政策根拠 , ハンドブック V 254 頁以下 - Wolfgang

Schweitzer, 私たちはフリードリヒ・フォン・ボーデルシュヴィンク・父に問う「 ベーテルノート24」 1981, 26頁以下-R. Th. Scheffer, 「教会の企業の代表者」, 内国伝道 1950, ノート 1 17頁以下

50, Otto Ohl, 1945年以降の内国伝道、作業課題, 内国伝道 1948, ノート9/10 77頁以下 (世俗のタイプについて)

51, Krimm III 273頁以下 (中毒の撲滅), 201 頁以下 (堕胎に反対して) 261頁, 264 頁(218頁)-内国伝道 1951, ノート 1

第9章

1 スイスのヨーロッパ救援について, Krimm III 186頁以下- Degen, 29 頁以下- Armin Boyens, 「教会闘争と世界教会」1939-1945; 教会の世界教会会議の資料を特に考慮に入れての叙述とドキュメント1973 358頁以下 (Boyens II縮小版) - Eugen Gerstenmaier, 「彼の時代は争いと和合をした」;「生活記録」 1981 251頁(Gerstenmaier, 「生涯」縮小版)スウェーデンについて, また グレフィン・リリィ・ハミルトンについて, 254頁以下- 1944年2月, シュトットガルトで統合された州監督 D. ヴルムと代表者グループは, この会議で受け入れたジュネーブのDr. シェーンフェルトによって, スウェーデンとスイスがしている準備について知った. 「Boyens II」 358頁以下をよ. - Dr. シェーンフェルトが戦争の間にした旅の一覧表, Boyens II 328頁以下を見よ- ノルウェーはドイツのための救援対策に急いで参加した. スイスにならって, ノルウェーはドイツ救援に参加した全ヨーロッパの国の第2の地位にいた. ハンドブック V 5頁以下

2, ハンス・シェーンフェルトについて, オイゲン・ゲルステンマイアー, 「D. Dr. ハンス・シェーンフェルトを記念して」, 世界教会の展望1951, ノート11, 134頁以下, 同書, Hans Sch feld 1900-1954, 世界教会辞典, 1960 Spalte300, 同書, 「ハンス・シェーンフェルトへの感謝」, 講演と論文 II巻, 1962 . 421頁以下 同書, 「生涯」. 242頁 -Theodor Schober, パウルコルマー, ハンド

ブックV.361頁（Sch　nfeld，燃え上がるあかり）- Lilje，「追想」211頁以下-Boyens II　索引参照- Willem A. Visser奏　Hooft，「世界は共同体」，自筆，1972　索引参照（Visser奏 Hooft縮小版）- Eberhard Bethge，「ディートリヒ・ボンヘッファー伝」，1967　索引参照- A. Lindt編集，George Bell-Alphons Koechlin. 交換書簡 1933 ,1954まで，1969 索引参照 -Eberhard Busch，「カール・エーベルト」- 経歴 - 彼の書簡と自伝テキストによる，1975，339，341，420頁 - ジュネーブにおける再建計画: Boyens II 249頁以下，同書，第3帝国に従う教会,40頁以下 - Visser奏 Hooft 索引参照

3, 注18 ，下記参照

4, Gerstenmaier,「生涯」242頁（彼はオットー・オールとヘルマン・クンストと話したに違いない．監督 D. ヴルムとの関係について，Boyens II . 238 頁以下参照．シェーンフェルトとの協定はゲルステンマイアーの逮捕後も続いている．

5,Gerstenmaier，「生涯」 149-223 頁- Ulrich von Hassell,「もうひとつのドイツから」日記，1946- ヴルム監督と彼の準備グループは１９４４ 年の男女の抵抗運動といかに親密につながっていたか,Boyen II　358頁以下参照，注1も参照

6, Gerstenmaier,「生涯」229頁 Boyens II ，358頁以下（下記テキストの文面）

7, Gerstenmaier,「生涯」232 頁以下-Boyens II 266頁「ジュネーブ人の名前を名乗るゲルステンマイアーはすでに知っていた．ヴィザートゥフトは1945年2月2日まで，ジュネーブではなくアメリカにいた．

8, ゲルステンマイアーとカール・バルトについて,Gerstenmaier,「生涯」339頁以下参照 - 両者の対立は 1937年から書かれている．Boyens参照，「教会闘争と世界教会」 1933-1939，1969　137頁以下.Boyens II　266頁以下にも．カール・バルトは1945年，ドイツのためのスイス救援事業の準備を積極的にしていた．ゲルステンマイアーとヴィザートゥフトは１９３９ 年7 月以来知っていた．

Boyens II . 84頁参照．ヴィサートゥフトは1945年11月になおためらい，ゲルステンマイアーは受け入れていた．D. テーオドーア・ヘッケル監督に対する誤解はゲルステンマイアーにもあった．その代表者は1944年6月20まで教会外務省に仲介した．だがヴィザートゥフトとゲルステンマイアーは後で留保なしに会って，その後双方の誤解が明らかになった．

9, Gerstenmaier,「生涯」 238頁以下

10, 上記参照

11, 240頁以下も参照

12, 「カリタス」 105頁 - Heinrich Johannes Diehl,「同志」477頁以下 (輸送システムの再建の際のブレーメンスの意味)「メノナイトの救援」 Degen 30頁参照

13, 「バイエルン救援事業の10年」 1955 13頁以下 -Gudrun Diestel, Antonie Nopitsdi, ハンドブック V, 427頁以下

14, Gerstenmaier,「生涯」244頁下 - Boyens II . 358頁以下 - カリタス．201頁

15, K. Jb, 1945-1948 . 392頁以下 - Christian Berg, 1957年までのシュトットガルト自由教会の調整事務所，K. Jb, 1957 . 211 頁以下 - G ter Hitzemann,「財政的提携における州教会と自由教会」ハンドブック V . 97頁以下

16, 「この教会指導者協議会は２つの積極的成果をあげ，非常にさまざまなゲルステンマイアーについてのあるいらだった雰囲気が，事実に即した証拠はないが，露呈されているという評価が注意をひいている．

第１に，ドイツ福音主義教会は，第3帝国と共に不名誉に滅びた帝国教会とその帝国教会支配の状況に踏み込んだ．彼らは，その役所と教会事務所と教会外務省の人員を一新した．会議について相談されなかった監督 D, ヘッケルは，教会外務省が法的に実際に帝国教会の統治によって守られたにもかかわらず，これらの職の指導者として認められなかったことは，ほとんど回避できない．当時，すべては価値判断としてでなく，事実判断として，ヘッケルに辛抱

強く歩み寄ったゲルステンマイアー自身，新しい占領がおこる必然性について意見が一致していた．トライザの協議会が採用した記述のすべての展望はこれから後の最も近い世代において可能となるであろう．さらに,Dr. シェーンフェルトは最初の集会の総会で世界教会運動の状況とジュネーブの役割に関する経過報告を行った．第２回の集会で，そのあとヘッケルが罷免され，本当は手元にある証拠書類によっては何もなされていないのに，後から救援事業は総会において受け入れられ，ドイツ福音主義教会で法的に確定した.Dr, シェーンフェルトによる２つの報告はまず第２の役割を,Dr. ゲルステンマイアーと入れ替え，ドイツ民族の限りない混乱と困窮を前にして，すでに動き始めた救援事業の必然性を迫力あるものとなし，また先に印刷されて，後から日付が入れられた救援を求める呼びかけが，ビラの形式で，教会指導者協議会の会員に，あきらかに抵対出来ないように配布された．これまで評価されなかった大会に関する資料が英国の観察者Col. ゼドヴィクの1945年のトライザ教会指導者協議会の報告の中で提出された．それは「教会の時」,277-284頁でユンゲルセンに発見された．Boyenの追加 1 と II,わかりやすいすべての資料もジュネーブで利用できる．また発行された文献を示している．ゲルステンマイアーの「生涯」245頁以下 と72頁以下．この論文のように「ヒトラー帝国教会外務省」「政治の緊張した局面における教会」H, クンスト70歳誕生記念論文集,1977, 307-318頁，おなじく Boyensの教会史雑誌のなかの論文1971 , 29頁以下「トライザ1945 - 第3帝国崩壊後の福音主義教会」．これは，教会指導者協議会の懸案になっている未解決の問題の中で最もよい認識を伝えている．おそらくそれは少なくとも積極的動機と教会史の影響を強調している.Krimm III , 187-196頁も参照（資料）

17, ゲルステンマイアーは，私たちが見る限り，シュトットガルト罪責告白を無視している．私たちはここでBoyenの1945年10月19日の「シュトゥットガルト罪責告白」に関する研究を紹介する．成立と意味,1971年の「現代史」季刊誌， 574頁以下「それは強く

反対されているように，とりわけシュレスヴィヒ・ホルシュタインのためにユンゲルセンが示している．」 288 頁以下も参照． また ,Lilje の追憶 165 頁以下．シュトットガルト罪責告白のあと，スイス教会の総会議長D． アルフォンス・ケヘリンが総書記ヴィザートゥフトと共に行った，廃墟となった南ドイツを旅した報告は有益である． George Bell-Alphans Koechlin, 交換書簡， 425-440 頁参照．

18, 1945 年 8 月と 10 月，スイスからトライザに，またシュトットガルトに来た，無数の例えばバイエルンの森の中にある被災地にいるほかの人たちは，両方の最初の将校の代表者グループについて行った．この代表団の多くの人たちは軍政府との調停に介入した．例えば ,1941 年まで公使館付説教家であったスチュアート． W. ヘルマン牧師はベルリンでアメリカの使者であった．彼は一冊の本を書いた，それはヴィルヘルム・ゴスマンがドイツ語に訳している．「私たちの魂は，私たちが基礎に教会をもつことを望んでいる」 1946. それはさらに英語でニューヨークで出版されている．ヘルマンはとりわけ 1945 年以降のバイエルンで，その地の軍政府との調停者として成功した． Lilje,「追憶」 211 頁 - Boyens II, 239 頁以下，267 頁以下 - 注 17 上記参照

19, クリスチャン・ベルクとオイゲン・ゲルステンマイアー -「ドイツ福音主義教会救援事業の創設者また指導者」, Bruno Heck (編集) 「抵抗 - 教会 - 国家」，オイゲン・ゲルステンマイアーの 70 歳の誕生を祝って， 1976, 39 頁 - Otto Riedel, 「内国伝道と救援事業の合併の記憶」ハンドブック IV .244 頁．アメリカ人牧師 Dr. ディートリヒからの引用「ゲルステンマイアーは怪物性を発揮した．彼は正直な男である．彼ははっきりしたイメージを持っている．また行動する力があった．私たちはドイツでだけ重要な意味をもっている Vis-a-vis[向かい合っている相手]の人であって，事務室だけの人ではない． - Mehnert , 308 頁 - 同書，「政治の周辺で」 ,Hermann Kunst (編集), 自由と正義のために．オイゲン・ゲルステンマイアー の 60 歳の誕生を祝って， 1966 .19 頁以下

20, Mehnert, 308 頁

21,308 頁上記参照 - Ludwig Gei°el, 「救援事業の当初から」, ハンドブックIV 236 頁以下 - Theodor Schober,「パウル・コルマー」, ハンドブックV,358 頁 - Ernst Wilms,「パウル・コルマー」同じく 353 頁以下 - Mehnert, 「政治の周辺で」 133 頁以下

22, 監督D. ヴルムは,1945 年 2 月にとりわけ告白教会の教会闘争の中で守りぬかれた信徒とともに計画した救援事業をはじめようという意見が一致した. Boyens II . 360 頁参照.

23, ゲルステンマイアーはD, ヴルム監督のように多くのことを期待した. 調子はゲルハルト・ブレネッケ,89 頁以下による.Jb, Hw. 1956/57 で緩和されて, 私たちは私たちの教会に多くを期待していない. だが, 仕える教会の機能は, 最後の年に非常に小さな部分でのみ発展してきた.(94 頁)- Jb, D. 1980/81 . 100 頁, 巨大都市の地域社会は多くの人が非常に多忙である.

24, Gerstenmaier, 「廃墟からの道」ハンドブック V 58 頁 - Krimm lIl 225 頁以下 - Gerstenmaier,「生涯」 255 頁以下 - K. Jb, 1957 . 214 頁以下 - K. Jb, 1950 , 292 頁

25, Mehnert,「政治の周辺で」 139 頁 - 「ドイツにおける生活環境」1947. 「ドイツ福音主義教会救援事業研究」,1947 - Degen . 32 頁以下 -「救援事業, 思想と人」 Jb, Hw. 1950 11 頁以下

26, Gerstenmaier,「生涯」 280 頁以下 - Mehnert 282 頁以下, 330 頁以下 -Lilje「追憶」95 頁以下 - Ulrich Frank-Planitz, 「私たちが記述した時代」- 週刊誌「キリストと世界」の歴史について,「抵抗 - 教会 - 国家」を参照オイゲン・ゲルステンマイアーの 70 歳の誕生日を祝って, 1976 . 146 頁以下

27,Theodor Wenzel, 「教会のディアコニーと伝道の課題」 (抜刷) - Gerstenmajer, 「生涯」 246 頁以下 - Krimm, ヴィヘルン II,「教会のデイアコニー職」 1965-2 . 467 頁以下 - Gerstenmaier, 「生涯」. 285 頁以下 (ヴィルヘルム II とベーテルの教会会議)-「福祉国家批判 - よく考えないで決議された社会福祉立法」jn: Jb. Hw. 1953 . 179 頁以下 - Rudolf von Thadden, ディートリヒ・ボンヘッ

ファーとドイツの戦後の教会のプロテスタント，136頁「公共の事業または活動への渇望は非常に強く，下層の人たちに対する世話がなされるようになった，タッデンは，そのことについて教会の力が十分であるのかどうか，また社会的位置の強調をただしく内的弱さの補償として見ているかどうか

28, Gerstenmaier,「生涯」 250 頁- Christian Berg, ハインリッヒ・グリューバー，ハンドブック V ，373 頁以下-「序文の下に，救援事業の記録と報告，「内密に厳格に！出版前に，抜粋の形で軍政府当局の許可を入手した！　報告と記録は私たちの手元にある．続編 1 と 2 ．1945年8月9日から，それは多くがベルリンと東地区からの恐怖に満ちた報告 -Th. Wenzel,「第2次世界大戦後の6年間における東ドイツの内国伝道」，1951

29, Gerhard Bosinki 編集，さらに答えの準備について，「福音主義諸州の伝道的ディアコニー活動と東ドイツにおける自由教会」 DDR, 1977 (基本著作) - Herbert Berger編集「福音主義ディアコニーの新しい像」，1967

30, Jb. Hw. 1945-1950 ．17頁 -Degen, 20頁- Krimm III 188頁 ，「D.ジルヴェスターからドイツ教会への挨拶　C. マイケルフェルダー，世界教会会議の時の　ルター派世界連盟のアメリカ局代理人,1945年7月17日，ジュネーブ．北アメリカ・ルター派教会のドイツ・ルター教会への多くの人的関係では，ジュネーブ事務所の救済援助のすべてがうまく行っていない．

31, Lilje,「追憶」，33頁以下

32, Jb. Hw. 1957/58 .73頁以下を参照 -クリスチャン・ベルク;戦争直後連合諸国は敗戦したドイツ国民のために，その制度において文字通り人道的であり，困窮した人に公平な救援をなした．北アメリカ大陸のキリスト教的人道的組織は彼らの活動的組織をもって，実際に隣人愛の爆発をひきおこし，それは規模と効果において，ドイツの奇跡的経済復興と対をなすもの，また先駆者として一種の愛の奇跡を体現した.K. Jb. 1957　65頁以下からの引用- Edward Mesweney O. P,「ドイツのためのアメリカの福祉援助」 1945-1950,

1950 - Hans-Josef Wollasch, 「第2次世界大戦後のドイツのための人道的海外援助」 1976.

33, Bodo Heyne, 「内国伝道における国際的世界教会的関係」, 内国伝道 ,1950 . 19頁: 関係は親密である, 彼らはますます組織的な性格を少なくしている - Gerstenmaier,「生涯」 267頁以下*「アメリカ旅行報告」 Wilhelm St臧lin参照, 「Vita Vitae, 生涯の記憶」1968, . 505頁以下

34, Gerstenmaier, 「生涯」277*289頁 * Krimm III 230 頁以下 *St臧lin 上記 533頁 * Degen , 28 頁以下, 55, 59頁以下* Lilje, 「追憶」113, 147頁*「学生救援について」 K. Jb. 1945*1948 . 411 頁以下

35, Gerstenmaier,「生涯」256頁 (抑留者と戦争捕虜のために行方不明者捜索機関と権利保護)- ゲルステンマイアー245頁, 監督 D. ヘッケルの活動に関して. ここで問いは未解決のままである. - テオドル・ヘッケルのゲルステンマイアーへの感謝, ハラルド・ペルカウ, 「感謝と責務, ドイツ福音主義教会の救援活動の10年間」, 1956,116 頁以下 - ヘッケルの救援事業は疑う余地がない. シェーンフェルトは1945年2月にベルリンにいた, そして彼との関係はゆるぎなかった. ヴィザートゥフト, ケヘリンと告白教会はヘッケルを批判していた. Boyens 1 , IIｂ Q照 ,そのことに関して, すべてはすぐに使える資料として提供されている.- Oskar Wagner, テーオドーア・ヘッケルの仲間たち, ハンドブック V5, 381 「生涯」1943年までの戦争捕虜に関する事実について). フランクフルト a. d. オーデルでの大規模な行動について K. Jb. 1945-1948 . 150 頁 - 「教会再建と福祉援助の順位についての議論. K. Jb. 1945-1948における討論参照. 世界会議は教会再建に優位を譲ろうとした. 上記参照. 注 34

36, Krimm III . 186 頁 - K. Jb. 1945-1948 . 409頁以下

37, Lilje, 「追憶」63頁 - Degenによる細目 31 頁以下

38,「救援事業の人事状況はしばしば変わった. シュトットガルト中央事務所では, 州教会の救援事業についての協議で, 話相手の担当者

が変るので，困難なところがあった．」

39, 「移民と移民援助の問題について」: Paul-Otto Ehmke, 「移民相談所」, ハンドブック1 258頁以下 - Krimm III, 189頁以下，上記参照 Krjmm

40, 故郷喪失者，難民および故郷からの追放者のために協会ディアコニー7年の中間総括の試み Karl Janssen編集，「ことばのもとでの奉仕」, D. Dr. H. シュライナー教授の60歳誕生祝の祝辞，1943, 179 頁以下

41, Jb. Hw. 1945-1950 , 52頁以下 - J gensen, 「教会の時」129頁以下 -Degen .55頁以下 - Jb. Hw. 1952.110頁以下 - Krimm III . 252頁以下 -「連邦州の他の州に移住させる責任のため3万5千人の難民を一緒にすべきという隊列運動」 .Kキ Jb. 1957. 214 頁以下参照 - とりわけJoh. Schr er, 「ラインハルト・ヴェスター」, ハンドブック V 468頁 (連邦共和国救貧院の難民監督ヴェスター)

42, Krimm III , 197頁 -「エスペルカンプの前歴史について」Diehl, Mirstreirer 480頁参照 - Krimm III 218 頁以下 - KキJb. 1957 .219 頁以下 - Jb.Hwキ1949-1953-Gerstenmaier, 「生涯」 257 頁以下 -Degen 59頁以下

43, Gerstenmaier, 「生涯」257頁以下 - Schwarz 166頁以下

44, Degen 77頁以下 - Lilje, 「追憶」 , 39頁以下 -Friedrich M chmeyer, オットー・オール，ハンドブック V , 434頁以下 - Gerstenmaier, 「生涯」331 頁以下 - Krimm III , 251頁以下;287頁以下(ドイツ福音主義教会救援事業に関する教会法 v. 5,4. 1951) ,

45 Krimm III 244頁以下 ,96頁以下

46, Gerstenmaier, 「生涯」.321以下 - Mehnert 376 頁以下 - Jb. Hw. 1956/57

47, Gerstenmaier, 「生涯」289頁以下 -Degen . 78頁以下 - K. Jb. 1957 , 210 頁以下 -Johanna Vogel, 「教会と再武装」1978 . 131頁以下 Lilje,「追憶」189頁以下 -Anselm Doering-Manreuifel,

「カトリックと再武装」問題に反対するドイツカトリック教会の態度 1948　955, 1980 - Krimm III 287 頁以下

48, Gerstenmaier,「生涯」290 頁以下 - Christian Berg, K. Jb. 1957 . 211 頁以下 . Mehnert, 「政治の周辺で」146 頁以下 - ハラルド・ペルカウにおけるゲルステンマイアー ,「感謝と義務」16 頁「救援事業と内国伝道の融合の苦労」「管理的なあるいは教会政治的な検討または担当部局のもとにあるどのような規制あるいは屈服もあるリスクをもっていて・・・人はますます熱心で情熱的な努力を促進し , 内国伝道と救援事業の指揮機関を互いに結びつけ , その結果 , それは名目だけのものでなく , 実質的にひとつのまとまった , 組織されたドイツ福音主義教会のディアコニー事業として姿を現し・・・すべての段階で教会と結びつき , すべての救援事業は余りあるほどに課題を持っている」

49, Gerstensnaier, 「生涯」253 頁「ヘルベルト・クリムとクリスティアン・ベルク」- Christian Berg, 「援助される教会」 8 号 ,1948 年 6 月

50, K.Jb. 1957.223 頁以下

51, 上記参照 235 頁以下

52, Jb. Hw. 1955 , 9 頁以下 - K. Jb. 1957　240 頁以下

53, Jb. Hw. 1953 . 25 頁; 1956/57 . 45 頁 -Jb. D. 1965 -D hoff. 「明日から明後日へ」　101 頁 - Edelgard Orth, 「ディアコニー災害救助 , 基礎体験」, ハンドブック V , 142 頁以下

54, K. Jb. 1957 , 224-235 頁 , ドイツ民主共和国への援助 , 236 頁 ,「ドイツ民主共和国への世界教会援助」-Krimm III , 215 頁以下 (里親制度)

55, Manfred Stolpe, 「ドイツ民主共和国福音主義教会の証しと奉仕の挑戦」, ハンドブック V 90 頁以下 - Ernst Petzold, ディアコニー事業の活動から -「内国伝道と救援事業」- ドイツ民主共和国福音主義教会 , ディアコニー 5, Mai 1981　111 頁以下 - Hans Wallmann,「ドイツ民主共和国の教会 - ディアコニーの再建」, ハンドブックV 190 頁以下　Jb. D. 1965-1969 も参照

56, Otto Riedel, 「内国伝道と救援事業の融合の想起」, ハンドブック IV. 242 頁以下

57, Jb. Hw. 197 頁以下 - 内国伝道 1954 , 101 頁以下

58, Hermann Dietzfelbinger,「教会の次元としてのディアコニー」, ハンドブック１ , 112 頁以下 - Heinz Miederer, 「自由社会福祉業務」, 共同体にとって好機, 同書 119 頁 - Krimm III , 312 頁以下 -Hermann Dietzfelbinger, ディアコニーのリスク ,1954.

59, ディアコニー学校について: Albrecht M ler-Sch l, 「ディアコニーの資料における養成と継続教育」: ハンドブック１ 122 頁以下 - Lothar Wiedemann, 福音主義社会福祉学校の活動の根本問題について , 中でも Paul Collmer 編集 , 政治の緊張した分野における教会 , 1977 143 頁以下 -A. M ler-Sch l, ディアコニー学校の活動について , 「幻想抜きのディアコニー」, 1980 . 25 頁 - K. Jb. 1952 431 頁以下

60, Jb. D. 1959/60 5.45 頁以下 ,「電話牧会の歴史」- Jb. D. 1963 , 117 頁以下 ,「電話牧会のヨーロッパの経験」 - Jb. D. 1960 100 頁以下 ,「ヨーロッパ電話牧会協議会」- Otto Kehr, 同僚に対するオープンなオール ,「電話牧会」, ハンドブック 169 頁以下

61, Jb. D. 1953 , 385 頁 - Jb. Hw. 1965 135 頁以下 - Schwirz, 「50 年の精神」, 375-464 頁 ,392 頁近代工業社会において , 教会はもう他の組織以外でない . 宗教は , 戦後の最初の年に , ならびにアデナウアー・エラが初期段階で明白に , 私事といったことについて , 全般的な効果を求める最後の燃焼に向かうようになった .

251 頁について

絶対秘密 1945 年 2 月

「ドイツ福音主義教会の自助事業」

総じて政治的軍事的状況の特別な深刻化を見ると , またこれまでの国当局や機関が突然麻痺する可能性を思うと ,1944 年 2 月にすでに次のことは決定していた . すなわち , ヴルム監督のもとにあるドイツ福音主義教会の指導部は , 中央の責任ある人たちに支持されて , それぞれの地方や田舎に担当部局がなければ、食品を支給し , 積

極的に援助を引き受け，また精神的な支援を引き受けた．この課題の組織的な準備が遅れて，国の多くの地におこる最悪の混乱と基金の最悪の現象を回避しなければならなかった．

この課題に着手するさい，指導的代表者をもつドイツ福音主義教会の指導者とドイツカトリック教会の人たちはそれぞれの地域で協力し，適切な分業によって大規模な困窮と厳しさを克服することができた．ドイツ福音主義教会において，総指揮者Dr．ヴルム(彼の活動に関する特別な覚書）はこの課題のための二つの中央特別委員会をつくった．

１．*食糧機関と支給機関の実際的部門の受入，もしくは指揮*をとる中央特別委員会がベーテルのDr．フリードリヒ・フォン・ボーデルシュヴィンクにゆだねられた．これは，寛大なキリスト教救援事業の組織の中で特別な経験であり，そのことは他の国の教会に知られた．(彼のキリスト教的な行動は国家社会主義思想に反対し，特に安楽死に反対する決然とした戦いのなかで，証明されている．）

ベルリンのグリューバー牧師が中央特別委員会の書記になった．彼は非アーリア人クリスチャンのために大胆で並外れて困難な救援事業をなして，最後の10年のうちに，特別な経験を積んだ．また他の州の教会においても特別な評価をうけた．この活動と強制収容所での２年の収容との関連で，労働者にいたるまで幅広い人たちの中で，また，急進的な準備を整えた人たちのなかで，あふれる信頼を受けた．人々は実践的な教会指導者の中で，国家社会主義の人たちと党の人たちが議論するように，証明された人を助け，同じく他の州の教会とながい年月かかわって，この人たちと有効な方法で協力する共同研究者を助けた．その上，工業と農業出身の，また手工業と労働者出身の教会のすぐれた信徒たちは，課題を実行しようとする際に，その専門知識を特に重要とした．

２．さらに，1944年春，中央特別委員会は共同体における霊的奉仕をするために福音伝道に出動し，ふさわしい対策が早く準備されるようになり，幅広い住民層に招かれるようになった．その後，精神的に深いショックを受けている幅広い住民が問題であり，また，

出動して働くすべてのスタッフと共に，危険が差し迫っている途方もない宗教的精神的真空状態の - それを戦争行為の終わりに向かって，その全体の激しさのなかで明らかにできる - 発展も将来に向かっていることが問題となった．その際に，特別な可能性が考えられていた．この事業全般に動員されたキリスト教のスタッフたちは，精神的な指導と教育活動を結びつけた．それは戦後の時代の全体を貫いて，ドイツ中の多くの教会共同体のなかで説教と牧会に，教会の訓練とキリスト教の儀式において，なされるようになった．(それについてはふさわしい証明書類も参照できる）特別委員会の指導は，教会闘争の中で勇気ある教会指導者であることを証明し，また国家社会主義の干渉に反対してきたベルリンのオットー・ディベリウス博士に委ねられた．彼は，特有の文学的，伝道的活動をなしとげ，また他の教会の指導者たちの信頼も厚かった．ドイツ福音主義キリスト教の協力者たちは特別委員会に所属した．それは牧会と伝道活動の出動において，全体主義国家の中では意識的にキリスト教の行動の中にいた時と同じように，特に際立っていた．同じように，教会教育の課題に携わる人や，キリスト教共同体と教会の教育制度の新秩序に協力を準備する人たちもそういう人たちである．さらに，キリスト教オリエンテーションを公開していく創造的な活動に協力することもそうである．この特別委員会は，聖書，新約聖書，分冊聖書および讃美歌と教理問答さらに教会の伝道に有効なふさわしい文学，神学作品および自覚的キリスト教の方向をもつ文学の再建に携わった．

３．この２つの中央特別委員会は，地方や田舎にいる特に中心的研究グループを彼らの活動の中で支えた．この人たちは牧師と信徒から構成されている．ドイツにおけるキリスト教共同体の闘いのなかで守り，厳しい課題を引き受ける状況の中で，また，もっとも地方の住民階層の人たちの信頼を得ていた．この中心的活動グループはそれぞれの県と町と地域で，個々の共同体の協力ができるようにした．この方法で，ほぼすべての地域とすべての住民階層を食糧管理によって把握した．おなじく教会の伝道出動はすべての州の地域

に広げることができた．

1944年7月20日に実行された，大事件に関連した多くの逮捕者と一部で処刑された人たちは，この行動全体の更なる拡充のために多大な困難を避けられなかった．個々の県には指導的キリスト教平信徒の列が工業や農業の中に，経営改革の中に，また教育制度の中にあり，逮捕あるいは処刑によって排除された人たちに代わる補充員を地方の中央特別委員グループ会の中に見つけることは，多くの場合うまくいくのかどうか確かでなかった．また航空戦の結果は国家社会主義システムが崩壊したあとの時代のために前から構想されていた食料備蓄倉庫をつくる可能性を打ち砕いた．その結果，困難はこの地域に多大の災いをもたらした．

４．この２つの重要な活動地域に置かれている大きな課題の克服は，そもそも，教会がこれまで以上に*キリスト教信徒の協力*を頼りにできる．その理由だけでよく考えることができる．

キリスト教の信徒たちはキリスト教共同体の闘いの中で最上の研究チームと一体となり，両者の最後の年の間に何回も疎開者たちの包括的な援助の中で証明してきた．この出動は，いわば将来の課題を取り扱い，果たされるように，特に試されている特別なテストでもあった．

５．*実際に有効であるものの中心*として，なかでも内国伝道と外国伝道，ディアコニッセの家とディアコニッセ施設，教会の労働者の家と青年の家が利用されるようになった．彼らが，そうしてほかの目的に利用するかぎり，一部は教会によってすぐに引き受けられねばならなかった．崩壊の一つの列のなかで，まさに労働者階級の代表者との親密な共同事業も，これまでの国家社会主義の国民福祉研究センターを引き受ける際に問題となった．

６．原則的にドイツ福音主義教会の指導は，カトリックの指導者と同じように，切迫した困窮に，自助という視点で，なにかできるところから始めるべきである．この自助事業は，その地方やある宗派の一員であるとか，またほかの制限条件にまったくよらない，民族を構成するだれにも益となっている．戦争捕虜または抑留者とし

て，あるいは帝国領土にいる労働者として生活し仕事をしているどの外国人にも，同じように援助が与えられるようになった．他から，そのための扶助を受け入れるのでないかぎり，最後の課題との関連で，外国の労働者にも守られているように戦争捕虜への精神的牧会的奉仕のためにドイツ教会支持者の出動も実際に行われた．

７．大困窮と困難を考えると，ドイツ福音主義教会の指導者たちはその克服によって彼らを味方にしようとする，*ほかの教会の同胞援助*を感謝して受けるようになった．

その場合，食料と金融資金の準備，聖書，新約聖書などの調達また，キリスト教や神学文献の再刊援助金が問題であった．

さらに，伝道の出動のように，実践的援助事業のための神学を学ぶ学校，全体の状況へ牧師が行きわたるようにし，準備をし，手伝うふさわしい協力者の派遣も問題であった．

さらに決定的に重要なことは，他の教会の指導的な人たちがドイツ福音主義教会の指導者たちの苦労を中央特別委員会の指導者や中央研究者グループの指導者たちに伝え，それぞれの地方で軽くするために政府の責任ある立場の人に抗議しに行くようになったことである．

８．ドイツ福音主義教会の指導者たちは，スウェーデンとスイスの巨大な国家的救援事業の指導者たちが自由に指示できる、ふさわしい関係者たち、この教会が委託した指導的人たちが、ドイツの福音主義教会の指導者たちと共に、あるいは全権をゆだねられた協力者たちと共に、結束するならば、それはもっと大きな意味をもつようになるだろう．

第10章

1 kヲ会の組織上の課題．Jb. D. 1957/58, 51 頁以下参照 -Wolfgang G denpfennig,「神学からディアコニー事業団組織の以下の特殊性」 ハンドブック VI,243 頁以下 - Johannes Michael Wischnath,「行動する教会 .1945 年から 1957 年までのドイツ福音主義教会の救

援活動と，教会と内国伝道の関係，博士論文，1982」-Krimm III,287 頁以下．「リリエ，「回想録」39 頁- Jb. D. 1957 137 頁以下，「連合に関する報告」-Krimm III,287 頁以下「内国伝道と救援事業との連合に関する教会法」- Jh. D. 1978 年から 79 年，152 頁（規定 6 章．1975）- Friedrich M chmeyer，「新しい章」，内国伝道 .1957 年 4 月，97 頁以下- Jh. Hw. 1956/57，71 頁以下

2, ミュンヒマイアーの決定: Jh. D. 1957/58 ,82 頁以下参照 -「ミュンヒマイアーの評価に関して，第 6 回ディアコニー協議会「社会福祉国家におけるディアコニーの責任，人間の国有化ではなく，国の人間化を」(複製出版)-「内国伝道ディアコニー事業団とドイツ福音主義救援事業団の総裁であるミュンヒマイアーの事業を回想する - 引退に際して 1963:オットー・オール「総裁の交替にあたって」を参照

3, ハンドブック IV の献辞「大いなる感謝」フリードリヒ・ミュンヒマイアー -「バイエルン内国伝道の記録」10/11 巻 1957/58 -「ベーテルからシュトットガルトへ」ベルリン日曜新聞 17.1957 年 5 月

4, Krimm III,306 頁 -「テーオドーア・シェーバー 60 歳の誕生を祝って」ハンドブック 1，Helmut Cla° 1 頁 -VII (1978)

5, Krimm III,293 頁以下- Jh. D. 1957/58,53 頁以下 -Johannes Schr er，「ディアコニー会議の活動と意味」，ハンドブック III119 頁以下

6, 「専門分野へ」Jh. D. 1957/58 ， 52，55，69 頁以下，上記

7, Jh. D. 1969 ，26 頁以下 -Jh. D. 1972 ，97 頁以下 -Hans Christoph von Hase 博士の 75 歳の誕生日に献呈されたハンドブック VI (1982)参照 優r. Heinrich-Hermann Ulrich 65 歳の誕生日に献呈された．ハンドブック 11(1979)参照．

8, Heinrich-Hermann Ulrich,「信仰への招き，国民伝道の今日」，ハンドブック 1，232 頁以下- Hans Ochsenbein,「内国伝道とディアコニー国際協会」，ハンドブック 1 頁 52 頁以下 「ディアコニーの各年報における国民伝道報告を参照，特に Jh. D. 1974 .114 頁以下」(統計），同じく Jh. D. 1976 ,326 頁以下

9, Theodor Schober 「ディアコニー」6,1976年11月 ,12月 , 329頁、「ディアコニー」にも .「1976年1月 , ディアコニーにおけるテーオドーア・シェーバー」

10, 「幻想ぬきのディアコニー」1980, 19頁 , 注60, IX章「幻想なき」Werner Jentsch,「文書牧会入門 , 自由に書いた覚書」1981年 , 同じく「牧会者 , 助言 , 証し , 救出」,1982年

11, Otto Kehr,「都市伝道 , 大都市における小さな貧しい教会」, ハンドブック II,79 頁以下 -Raimo Sinkkone, 「ヨーロッパ都市伝道の共同事業」, ディアコニ -5, Mai 1981,129 頁以下 -Reinhard Pioch,「大都市のディアコニー」, ハンドブック1, 154 頁以下 -Gerhard Kiefel, 「都市に対する幻想」, 同書139 頁以下

12, Otto Steiner,「モデルⅡ . ハッセルベルグⅠ都市の教会」, ハンドブックVI. 524頁以下 - Brigitte Schr er, 「専門性の問題分野 , ディアコニーにおける名誉職」同じく151頁以下

13, Lilje,「回想録」53, 59頁「敬虔主義の神学的空席によるディアコニーの孤独の勝利」Jh. D. 1973 .292頁以下 .「兄弟姉妹の共同グループ組織の同時縮小の際の共同作業の巨大な拡張」, Theodor Schober 参照、その割り当てでは協力者が25名いた . あらわれた教会としてのディアコニー ,87頁以下 - 兄弟の家のように、母の家と姉妹の家の状況に関する展望 . K. Jh. 1952 , 479頁以下

14,「ディアコニー事業委員会の統計上の基礎」Jh. D.1978/79,203 頁以下 . 別刷 .「感謝と奉仕」 1978,121頁以下 , ディアコニー活動からの引用

15,Albrecht M ler-Sch l, 「ディアコニー職員の基準」, ハンドブックII,317 頁以下 . Helga Mantels と Alex Funke による統計「幻想ぬきのディアコニー」26 と47 頁以下

16, 「社会福祉専門学校の状況について」Jh. D. 1977 ,133 頁以下 - Jh. D. 1976 ,142頁以下 -Jh. D. 1980/81 ,106頁以下 (専門学校の領域での協力なのか？） Jh. D. 1976 ,142頁 (青年援助と生活援助における質）Jh. D. 1972 ,114 頁以下(福音主義専門学

校の納得がいく発展）-Horst Seibert，「ディアコニー領域における行動的人間像の評価について」 ハンドブック IV,62 頁以下 - Theodor Schober「幻想ぬきのディアコニー」 11 頁以下 -Alex Funke，「再生した世代はどうであるか」 同じく 28 頁以下 - 同じく 47 頁以下

17, Reinhard Neubauer，「ディアコニーにおける神学者と非神学者の協力」ハンドブック VI,161 頁以下 166: 「施設，現場，ベット数の全体の増加の魅力と協力者」

18, Paul Philippi，「ディアコニー学 20 年の経験」ハンドブック VI ，44 頁以下 -「大企業について」. Reinhard Neuhauers Warnungen ，ハンドブック VI.166 頁以下参照，Kurt Str el，「チャンスと重荷としての大企業」 ハンドブックV ，235 頁以下

19, Jh. D. 1964.40-62 頁(福音主義学校と全寮制学校）Jh. D. 1970 ，80 頁，(大変革する福音主義学校）- F. Dietzfelbinger,(なぜ福音主義学校なのか？）Jh. D. 1964 ,63 頁以下 - (兵役拒否者に課せられる)代替服務について）Jh. D. 1965，108 頁以下(「代替服務の 5 年間」）Jh. D. 1980/81 ，116 頁(統計） - 「1968 年以来誕生は半減した」

20, 「教会と神学の中でものを言わない無言状態について」 Theodor Schober 「幻想ぬきのディアコニー」31 頁参照

21, Jh.D. 1967，14 頁

22, 上記参照注 20.

23, Paul Collmer，「社会福祉援助とディアコニーの規定について」. 監督ヘルマン・クンスト博士，70 歳の記念論文集の中，1977 年 183 頁 - 同じく「福祉保障問題，再配置国家としての社会福祉国家」，同じく，「福祉国家，共同体への義務を伴う自己責任の要求」Jh. D.1958 年，59 年の中の 31 頁以下 - 同じく，「社会福祉援助」ディアコニー社会福祉政策論文集，1969」-D. Dr. Collmer の 65 歳の誕生日に，1972，同じく Paul Collmer を記念して 1907-1979(原稿印刷として，感謝の贈り物) - 注 21 参照 ， IX 章

24, ハンドブック V ，7 頁以下の引用

25, Helmut Seifert の解説について，「幻想ぬきのディアコニー」85 頁以下 -「さしつかえのない問いについて」Jh. D. 1968,103 頁 - Jh. D. 1976,336 頁

26, Krimm III ,239，252，322 頁 -Jh. D. 1977,135 頁 (完全主義の